

プロの占い師が密かに使う

二巻

占い心理学
恋愛・結婚編



これさえ知っていれば開業できる技



目次

はじめに 7

「異性とのつき合いかた」 お悩み解決 12

- 「あの人が安心して心を開く異性とは？」 占い心理学的解決法 12
- 「異性が嫌いになるあなたの部分」 占い心理学的解決法 21
- 恋愛相談でお客さんの根底に恐怖がある場合の占い心理学的解決法 32
- 男女の相性問題をホロスコープのアスペクトで解決する 36

男女関係と親子関係に共通する最高の状態とは？

41

■ 「結婚に向かうべきでないとき？」という占い心理学的解決法

43

・ 結婚のタイミングの問題をホロスコープを使つての解説する

45

■ 「あの人と別れたほうがいいですか？」占い心理学的解決法

50

■ 「結婚は早いほうがいい？遅いほうがいい？」占い心理学的解決法

54

■ 「早婚と晩婚どちらがいいのでしょうか？」四柱推命的応答話法

56

「必要なパートナーとは？」のお悩み解決 60

■ 「あなたに必要なパートナーは？」という相談へのアドバイス

60

水素原子にみる「溶ける」と活動範囲のひろがり

60

- 「私に必要なパートナーとはどんな人？」 四柱推命的応答話法 62
- 占い理論が教える理想の相性とは？ 66
- 正反対に位置する相手が理想の相性 66
- 「あなたの結婚相手はどんな人？」 占い心理学的解決法 72
- 「あなたを幸せにしてくれる人はどんな人？」 占い心理学的解決法 78
- 「異性によって運が下がるとき」 占い心理学的解決法 82
- 「異性と恋に落ちるときのかっかけ」 占い心理学的解決法 86
- 「気になるあの人を、振り向かせるには？」 占い心理学的解決法 90
- 自分に無い通変星の価値観を体得すると開運する 97
- 「恋の発展をさまたげるポイントとは？」 占い心理学的解決法 106
- 「あの人があなたと別れようと思うときは？」 占い心理学的解決法 103
- 「恋人をつくるにはどうしたらいい？」 占い心理学的解決法 109

人の構造を知ると何が変わるのか？ 113

不幸になる努力をしなくなる 113

二分思考でいる限り幸せになりえないわけ 116

物質でさえ自由を楽しんでいる 128

内面で燃える火 筆者の人生を占いで検証する 135

紫微斗数推命で脱サラを決意 135

四柱推命では独立するなど示されていた 139

四柱推命を実用的に使う 144

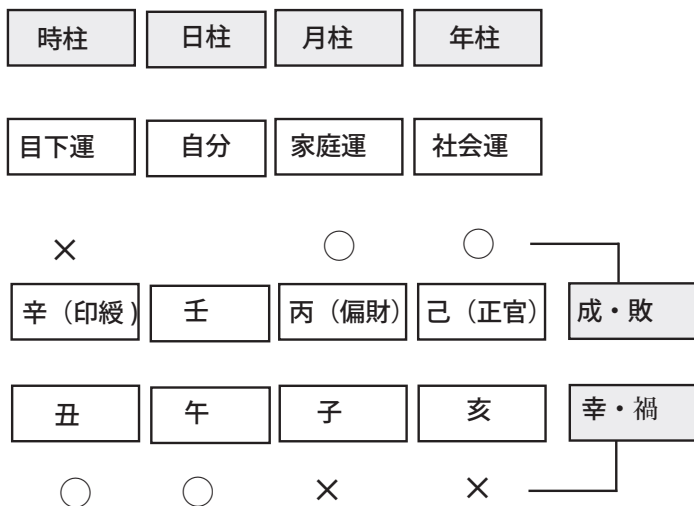
会社の運営方針を決定するのに四柱推命を使った147

人の構造（天と地の関係）

152

フォーチュンソフト代表

天野 雲海

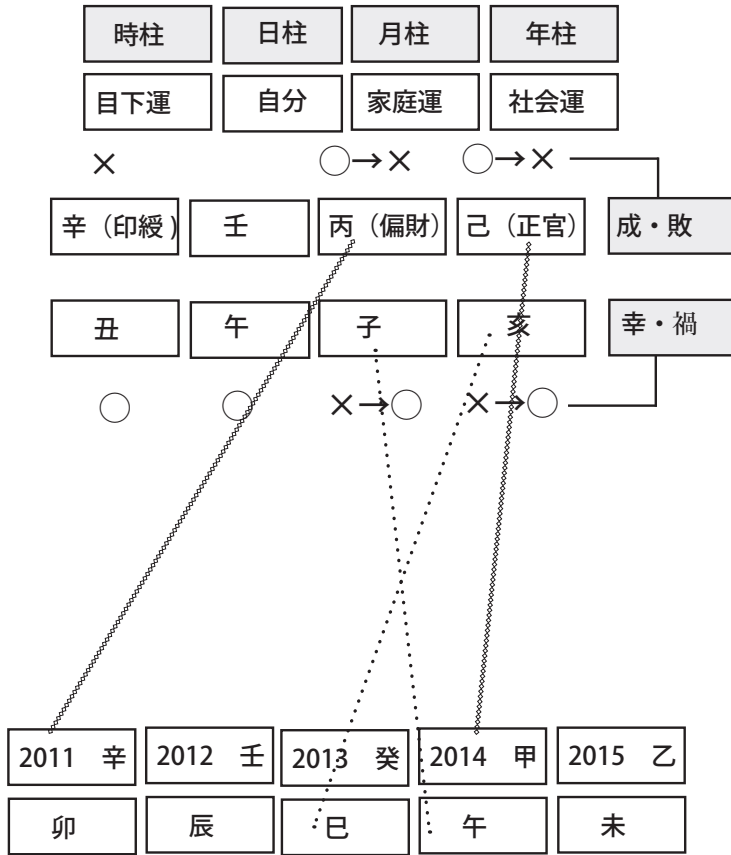


喜ぶ神 ○ 土と火
 忌む神 × 木と金と水

筆者の事例 (吉凶鑑定)

古典的な鑑定では次のようになります。

- ・社会運
成敗では成功。幸せ度は低い。
象意は正官なので組織での出世。
- ・家庭運
成敗では成功。幸せ度は低い。
象意は偏財なので良き妻。
家庭は豊かな商売をやっている。
- ・自分
日支が吉なので配偶者運は良い。
- ・目下運
成敗では失敗。幸せ度は高い。
象意は印綬なので人気のある目下。



年運吉凶転化の事例

- ・2011年
辛と丙が干合して家庭運の成敗面での吉運を去ってしまう。凶運へ転化。
- ・2013年
子と午が冲して家庭運の幸禍面での悪さを去ってしまう。吉運へ転化。
- ・2014年
甲と己が干合して社会運の成敗面での吉運を去ってしまう。午と亥が冲して社会運の幸禍面での悪さを去ってしまう。吉凶半々。

今までの占い理論の根底にあるもの

いきなり従来の四柱推命の鑑定書を紹介しましたが、これを解説できるようになっても実際には占いで稼げるようになりません。それでは今までの占い理論の根底にあるものを紹介していきましょう。今までの四柱推命学の理論は、すべて**吉と凶を決定しなければ運命学ではない**という前提があつて組み立てられたものです。日本にある四柱推命教室で十年以上通つて教えられることは、結局、命式の月柱の天干、地支、年柱の天干、地支、時柱の天干、地支に、吉と凶を割り振つていくだけです。日柱には吉と凶を割り振りません。なぜならば、日柱は自分自身だからという理論です。自分自身の吉凶は割り振らずに、家庭運や仕事運の吉凶は決定するという原理なのです。ここも筆者はおかしいと感じます。

自分の考え方が悪いから、家庭も仕事もうまくいかないのが現実です。自分の考え方が良いと家庭も仕事もうまくいくのが現実です。その吉凶を決定する原理は五行の強弱です。命式全体の五行のエネルギーを判断し、命式にとって良い五行を最初に決定します。そこまで決定したら、命式に吉○と凶×をつけていけばいいのです。

月柱は家庭や身近な職場を意味します。天干は成敗を見ます。すなわち、家庭や職場の吉・凶を判断します。吉・凶の象意は日柱の天干と月柱の天干から導く通変星で見ます。地支は幸禍を見ます。すなわち、家庭や職場の幸せ・不幸を判断します。吉凶ではありません。

年柱は社会面や仕事面を意味します。天干は成敗を見ます。すなわち、社会的、仕事の吉・凶を判断します。地支は幸禍を見ます。すなわち、社会的、

仕事の幸せ・不幸を判断します。

この古典的な天干と地支の理論を読んで疑問を持たないのでしょいか？ 天干は成敗、地支は幸福を示すという理論には違和感があります。天干は精神、地支は肉体という解釈が正しい解釈です。

今までの理論では、**成功と失敗は幸せ度とは無関係**ということなのです。失敗しても幸せはある。成功しても不幸はある。ビジネスで成功しお金持ちになっても不幸はある。ビジネスで失敗し生活保護を受けていても幸せはある。家庭が成功しても不幸はある。家庭が失敗しても幸せはある。

なんとなく、こじつけみたいです。**成・敗と幸・禍は別物という発想が古典的な理論の根底にあります。今の時代は、この考え方を卒業しないと占い師として食べて行くことは難しくなっています。**それでは占い心理学の世界を紹介していきましょう。

「異性とのつき合いかた」 お悩み解決

■「気になるあの人が安心して心を開く異性とは？」 占い心理学的解決法

まず占いの正法を使つて説明すると「自分に無いものを持っている異性」がその答えです。四柱推命の十干では干合干がこれにあたります。例えば、乙の干合干は庚です。乙が持つてない部分を庚は持つています。ですから気になるあの人が乙ならば「気になるあの人（乙）は庚の人に対して安心して心を開きやすい」と答えることができます。同じように、甲と己、丙と辛、丁と壬、戊と癸、が干合干です。これが正法による解説です。ただし実際にあの人が、どんな人物に心を開くのかは別の見方が必要となります。

自分に立場を置き換えて考えればわかると思いますが、いつも私利私欲に固まっただけで、自分の得することばかり主張する人に「自分の悩みを打ち明けたい」とか「自分の心を見せてあげたい」と思いますか？ 思いませぬね。私利私欲に固まった人よりも、公的な欲で動いている人、例えば「自分の所属しているチーム全体をなんとかしたい」「自分の所属している組織全体をなんとかしたい」あるいは「自分の所属している業界全体をなんとかしたい」という思いで動いている人に、人間は安心して心を開くのです。これが奇法の答えです。

これから正法を使って解答していきます。甲の干合干は己で、乙の干合干が庚ですが、相談者にこれをそのまま言うのではなく「気になるあの人が心を開くのは、気になるあの人の欠点の部分を持たない人です」と言い回しを変

えて説明しなければ駄目です。そして先ほどの奇法の答えを大前提として覚えておいて下さい。

甲きのえ 気になるあの人はプライドが高い人です。自分でも、それは嫌なところだとわかっています。ですからプライドなど持つておらず、より温かい情を持っている人に安心して心を開いていきます。干合干でいえば己の人です。

乙きのと 気になるあの人は、どうしても失敗を怖れる慎重なタイプです。それは自分でも嫌いなところです。ですから、自分とは反対タイプで、失敗を怖れずどんどん行動する人に心を開いていきます。干合干でいえば庚の人です。

丙ひのえ 気になるあの人は自分が目立ちたい人です。ですから逆に目立ちたい欲

求があまり無い人、地味な人、そういう人に安心して心を開きます。干合干
でいえば辛の人です。

丁ひのと 気になるあの人はどうしても穏やかです。そのため人間関係のゴタゴタ
も避けたいと思いがちです。しかしそれが欠点であることもわかっています。
ですからゴタゴタでも何でも覚悟して「よくないことはよくない」とはつき
り言えるタイプの人に、安心して心を開いていきます。干合干では壬の人です。

戊つちのえ 気になるあの人は頑固です。どうしても自分の考えにこだわるところが
あります。ですから逆に、自分の考えにこだわらない人、非常に従順な人に
心を開きます。干合干では癸の人です。

己つちのと 気になるあの人は自分勝手な感情によく振り回されます。ですから自分勝手な情に振り回されない人に安心感を抱きます。自分勝手な情をコントロールし、何事も理論で整理整頓できる人、そういう人に安心して心を開きます。干合干では甲の人です。

庚かのえ 気になるあの人は周りのことをあまり気にしません。そういう自分の欠点が好きですから、逆に人を大切にして心配りのできる人に心を開きやすくなります。干合干では乙の人です。

辛かのと 気になるあの人は何かと非常にデリケートです。そのデリケートさが欠点であり、嫌に思っているところなんです。ですから逆にデリケートではない、どちらかという自信たっぷりの人に安心して心を開いていきます。干合干で

は丙の人です。

壬みずのえ 気になるあの人は、常に世の中の先々を読みます。時代の先を読んでいつも考えています。そのように先を心配してしまうところが疲れる部分です。ですからあまり先々のことを考えないタイプで、穏やかになれる人に心を開いていきます。干合干では丁の人です。

癸みずのと 気になるあの人は柔軟に人に合わせることができません。誰にでもいい顔ができますが、それが欠点だと自分でも思っています。ですから逆に、人に合わせることも無く自分の信念を貫く人に心を開きます。干合干では戊の人です。

占いの正法を使う場合でも、このように心理的に深い読み方をしながら使っ

てほしいと思います。続いて同じ「気になるあの人が心を開く異性とは？」を
通変星で解説してみます。この場合は月支元命か月柱天干、または年干の通変
星のどれかを使います。気になるあの人は、持っている通変星の影響によって、
どういうタイプの異性に心を開きやすくなるでしょうか？先程の十干は精神
の欲求をあらわしましたが、通変星は価値観をあらわします。価値観とは「あつ
それはいいね」とか「それは悪いね」などの、あの人が価値を置くところです。
そのため通変星で相性をみる場合は、似たもの同士の方が心を開きやすくな
ると判断します。価値観が似たもの同士でなければ、なかなか心を開くこと
はありません。価値観が違う相手には「どうせ言ってもわからない」と心が
閉じてしまうからです。

比劫・比肩・劫財は、前へ前へと前進するタイプです。あの人の価値観がそ

うですから同じように前進するタイプの人に安心して心を開きます。

食傷・**食神**と**傷官**は、とにかく自分を表現します。自分を前面に出し、あまり隠しません。ちよつと出しゃばりなタイプですから、同じように自分のことを何でもしゃべってしまう人に心を開きます。

印星・**偏印**・**印綬**とも**快樂タイプ**です。楽しく生きたいという価値観を持っています。苦勞しようとか、我慢して、というタイプではありません。ですから「人生は楽しくおかしくが第一番よね」と思っているタイプに心を開きます。

財星と官星は詳しく解説します。実は、比劫、食傷、印星の三種類の通変星のグループは、人間関係において他人のことを重視しません。比劫・食傷・

印星のグループは、自分を中心としてエネルギーがまわっているグループなので、他人の状態がきっかけとなって自分が変わることがありません。

ところが財星には「相手の心を読んで、それに合わせて自分が何をするか?」という意味合いがあります。官星には「相手が自分に対して、何を求めているのだろうか?」という価値観を持っています。どちらも始めに相手ありきの通変星なのです。「他人の状態や価値観から出発して、次に自分はどうか行動するか」という価値観を持ちます。ですから財星と官星を持っている人で、自分の私利私欲をそんなに主張しない人や、公的な精神が強い人であるならば、占いの相性は関係なく、基本的に安心して心を開くことができる人だといえます。ですからもともと財星や官星を持つ人は、カウンセラーや中間管理職のように、目下や目上をコントロールする立場で、上手に振る舞うことのできる資質を持つているのです。

■「異性が嫌いになるあなたの部分」 占い心理学的解決法

実際の悩みの現場では「私のどんな点が異性に嫌われるのでしょうか？」という相談が多いですが、この「嫌い」という言葉も非常によくありません。というのも、この発想が既に好きと嫌いを分ける**二分思考**になっているからです。常に頭の中で、「好きなのか嫌いなのかどっちなの？」と選択を迫られています。頭の中が二分思考である限り絶対に開運しません。好きも嫌いも同じエネルギーの歯車ですから「嫌い嫌い」という思いは、あるきつかけで瞬間に「好き好き」の思いに変わります。「好き好き大好き」というのは、あの瞬間に「超大嫌い」になります。これは実際の男女の感情関係のもつれの原因としてよくあることです。

ですから相談を受ける側は、「好きとか嫌いとかを、分けないのです」とか「分ける発想は駄目だよ」と相談者に考え方を变えて帰ってもらわなければいけません。それでは、具体的にどうアドバイスするのかホロスコープの星座を使って説明します。太陽が入っている星座をみるか、星が三つ以上入っている星座（フォーチュンソフトのソフトウエアではこれを支配星座として算出しています）をみます。そして「あの人に嫌われるところ」という発想を「あの人には理解できない優れた長所」と変えていきます。このように説明すれば、相談者は好きか嫌いかの二分思考から脱出することができます。「あの人、長所をわかってないだけ」と解釈できれば二分思考が解けます。

おひつじ座 「あなたには行動力があり、即断即決できる長所があります。あ
 の人はそれをわかっていません。ですから『何でも思いつきで突っ走るから

嫌い』とあなたに言ってくるのです」

おうし座「あなたはとても現実的で安定志向です。あの人はそれを『停滞しているつまんない』と誤ってしまいます。安定志向があなたの優れた長所だとわかってないのです」

ふたご座「あなたは変化が好きです。ちよつとしたことでいろいろと変わります。あの人はすぐに変わるところが嫌なのです。ですから『昨日言ったことと今日言ったことが違う！』と怒ったりします。あなたの臨機応変に対応できるところが長所だとわかってないのです」

かに座「あなたは非常に人情的です。人情で動きます。あの人はそれを認め

ることができません。ですから『人情なんか左右されないで、もっとドライにスパッと決めてよ』とあなたは怒られてしまうのです」

しし座「あなたはやりたいことをドンドン実行します。やりたいことをやるという優れた長所をあの人にはわかっていません。ですから『頑張つてやっているのは分かるけど、ちょっと方向性ずれてない?』と嫌悪感をあらわにします」

おとめ座「あなたはとても分析的で、非常に細かい分析をします。あの人はその長所だと認めています。ですから『分析ばかりしてイラつく!』とあなたに言ってくるのです」

てんびん座「あなたはいつも人間関係のバランスを考えています。そのため、

あまり感情を表に出しません。あの人はそれが長所だとわかってません。ですから『ハッキリ感情を出してものを言ってみよ！』ときつく要求してくるのです」

さそり座「あなたは魂の触れ合いを求めます。それは長所なのですが、あの人は認めていません。ですから『他人の心の中に土足で入ってこないですよ！』とあなたに言ってくるのです」

いて座「あなたは社会的な使命感が非常に強い人です。それは長所なのですが、あの人はわかっていません。ですから『仕事やあなたの責任感より、もつと一緒にいてよ、もつと私と遊んでよ！』とあなたに要求してくるのです」

やぎ座「あなたは一生懸命コツコツと努力します。あの人はそこが長所であ

ることが理解できません。ですから『自分が努力するのはいいけど、私に同じように要求するのはやめて!』とあなたに言ってくるのです」

みずがめ座「あなたはちょっとユニークな感性の持ち主です。そして何事にも反発するところがあります。それは長所なのですが、あの人はその良さを認めていません。ですから『あなたの判断は間違っているよ!』とあなたに言うてくるのです。誰も気づかないところをみつけて反発している、あなたの良さをわかってないのです」

うお座「あなたは非常に幻想的です。人類全てを愛したいという部分があります。あの人はそれが長所だとわかっています。ですから『そんなことよりも、さっさと今の現実でしょ、これをどうするの、あれをどうするの!』と

あなたに言ってくるのです」

以上がホロスコープの星座を使った解答です。続いて四柱推命の通変星を使った事例を紹介します。見る場所は、月柱の天干か年柱の天干、または月柱の月支ですが、どこの部位が働いているのかは一生の間に変化します。

比肩「あなたは周りから反対されても実行してしまいます。あの人は、そういう意地っ張りなところを長所として認めていません。ですから『意地っ張りなところが嫌い!』と言われてしまうのです」

劫財「あなたは何でも夢中になってやってしまいます。ですから欲しいものがあればすぐに買ってしまいます。それは長所なのですが、あの人はわかっ

ていません。ですから『浪費ばかりしているから嫌い!』と言ってくるのです」

食神「あなたはいろいろと気分が変化します。その変化は周囲の雰囲気に合わせて、うまく自分の対応を変えられる長所なのですが、あの人はそれが気に入りません。ですから『あなたの気まぐれなところが嫌い!』と言われてしまうのです」

傷官「あなたは非常にするどい観察力を持っています。いろいろと指摘をします。しかしあの人はいろいろ指摘するところが気に入りません。ですから『あなたの言ってることはわかるけど、言い方がきつくて嫌い!』と言われてしまうのです」

偏財「あなたは社会性が非常に強いです。そして社交的な面を持っています。しかし、あの人にはそれが気に入りません。ですから浮気性の人間に見えるので『あなたは誰にでも馴れ馴れしくするから嫌い！』言われてしまうのです」

正財「あなたは非常に堅いです。発想が堅く真面目なところが長所なのですが、あの方はそこが気に入りません。ですから『もうちょっとワガママ許してよ、もう嫌い！』と言われてしまうのです」

偏官「あなたは新しい時代の流れに合わせて、どんどん自分と周りを変化させ改革していきます。あの方はそれが気に入りません。ですから『あなたの変化についていけない、疲れるから嫌い！』と言われてしまうのです。自分を変えることは過去を捨てることです。本当はなかなか難しいことです。偏

官にはそれを平気でやってのける長所があります。」

正官 「あなたは非常に自制心が強いです。そのため昔の失敗や自分の恥ずかしい部分を表に出したくありません。それは長所なのですが、あの人はそれが気に入りません。ですから『過去の自分を表に出せないなんて信用されないみたいで嫌!』と言われてしまうのです」

偏印 「あなたはとても好奇心が旺盛です。やりたいことがいろいろとあって、すぐにコロコロと変化します。あの人はそれが気に入りません。ですから『あなたのコロコロ変化するところが嫌! ついていけない』と言われてしまうのです」

印綬「あなたは精神世界に重きを置く傾向があります。スピリチュアル的な発想をする長所がありますが、あの人はそれが気に入りません。ですから『もうちょっと算盤はじいて、きちんとやったほうがいいんじゃないの!』と言われてしまうのです」

この問題のポイントは、相談者が男性である場合「好きになった女性から嫌われたくない」という恐怖心を持っているところです。逆に相談者が女性であれば「好きになった男性から捨てられたくない」という恐怖心を持っているところです。ですから相談される側は、この恐怖心を溶かしてしまわなければ駄目なのです。

■恋愛相談でお客様の根底に恐怖がある場合の占い心理学的解決法

まず「好き」とか「嫌い」の敵対関係にある言葉を溶かしてしまいます。それでは溶かすためにどうするか？例えば「あなたの気になる人は、あなたの長所を欠点と見てしまっているから嫌いになっているのかもしれないよ」というニュアンスで解答を組み立て、柔らかくアドバイスします。すると相談者の好き嫌いの二分思考が溶けていきます。

次に「相性の良い悪い」の問題を説明します。「占い理論」としての良い相性・悪い相性は確かに存在しています。しかし、恋愛の相性を相談される実際の現場では、占いを使うまでもない悩みや、占いを使うべきでない相談が圧倒的に多いのです。恋愛の相性についての相談では、占いを必要はほとん

ど無いといつてもいいぐらいです。

なぜならまず第一に、「自分に対して自信と安心感が無い人には、どんな相手と出会ったとしても、相性は必ず悪い」という現実があります。占い理論上、最高に相性が良いとされる相手でも駄目です。ここで言う「自信」とは「威張る」ことではありません。何か難しいこと、困った出来事、事件が起こったときに「大丈夫だ、自分は大丈夫なはずだ」と思える自信のことをいいます。心の根っこに「なんとかなる」という思いがある人は、どんなに時代が変わっても、困難になっても、不景気になっても、たとえ会社からリストラされても、一番根っここの部分に安心感があるのです。こういう人はだいたいどんな人との組み合わせでも相性がいいものです。というより、こういう人は自然と自分と同じように、心に自信と安心感を持つ異性と恋愛をして、カップルと

なる傾向があります。

心に安心感がない、恐怖心に支配された人は「もしこうなったらどうしよう」「もしこれができなかつたらどうしよう」「もし会社をクビになったらどうしよう」「もし住宅ローン返せなくなったらどうしよう」「もし病気になったらどうしよう」「もし年金がもらえなかつたらどうしよう」という発想を常にしています。こういう人は不思議と、自分と同じような、不安と恐怖を心に持っている異性と恋愛してカップルになっていきます。そして安心感を心に持つ人と、恐怖感を心に持つ人が恋愛してカップルになることは、ほとんどありません。

そして電話相談や占いカウンセラーに悩みの相談に来る人というのは、はっきり言ってしまえば、不安と恐怖に心を支配されている人達です。ですから、

そんな人がどんな素晴らしい異性と恋愛関係になったとしても相性は悪いのです。

恐怖に支配された男性は、例えば、聖母マリアみたいな慈愛に満ちた女性
が好意を示してくれたとしても、やはり不安と恐怖を感じてしまうのです。「こ
んな素敵な女性が自分を相手にするはずがない」と不安と恐怖が沸き起こり
心がそれに支配されてしまいます。女性の場合も同じです。イエス・キリス
トや弘法大師のような聖人みたいな男性と仲良くなっても「こんな立派な男
性が私を相手にするはずがない、そのうち遊ばれて捨てられるはずだ」と不
安と恐怖の感情が発生してしまうのです。

自分に自信と安心感がある人は、自分を許せる人です。自分に欠点があつてもそれを認めて許している人です。これは非常に重要なポイントです。自

分の欠点を認め許しているので、相手の欠点も認めて許すことができるのです。相手の欠点を許せる人ですから、どんな人が相手になっても相性がいいのです。占いを使う必要が無いというのはこういう理由からです。ですから、占いの現場で恋愛の相性相談を持ちかけられた場合、占いの知識や理屈をこねくりまわすよりも、奇法の発想を覚えておいたほうがよっぽど役に立ちます。そして実際の現場では占いの正法と合わせてアドバイスしますので、これから正法を使った説明を紹介していきます。

■男女の相性問題をホロスコープのアスペクトで解決する

男女の相性診断に西洋占星術を使う場合、金星と火星のアスペクトを使います。男性は火星、女性は金星の入っている星座をみます。そして、その星

座間のアスペクト（星座間がどれだけ離れているのか）をみます。そして相性をみる場合、二人が出会ったころの初期の相性、肉体関係を持った後の相性、同棲や結婚をしてお互いに慣れてきて、馴れ合いになってきたときの相性の三段階を区別してみていきます。フォーチュンソフトの西洋・インド・七政占星学プロ版を使えば、アスペクトは詳しく診断できます。

火星と金星のアスペクトが0度、火星と金星が同じ星座に入っている場合です。火星と金星が同じ星座にあるので、恋愛初期はお互いの関係に無理がありません、四柱推命でいうと比肩的な相性です。お互いに共通する内容が多いので違和感がありません。肉体関係を持った後も、割と早く一体感を味わいます。結婚して慣れてくると、お互い生活の“におい”を感じるようになるので異性としての刺激は薄れてきます。

火星と金星のアスペクトが三十度、星座が隣り合っている場合です。例えば、おうし座とおひつじ座のように隣り合っている場合です。四柱推命でいうと食神傷官の関係です。恋愛初期は、飲んだり食べたり飲食を共にするような心地よさのある関係です。肉体関係を持った段階では、常にくっついていたい相性になります。慣れてくると、だんだんお互いの役割分担が明確になっていきます。

火星と金星のアスペクトが六十度、四柱推命でいう財星・官星と同じような働きをします。同じ内容とは、指示したり指示されたりという関係です。恋愛初期ではコントロールしたりされたり、あるいは支持したりされたりという関係です。肉体関係を持った後はお互いに要求し合います。最後に慣れて

くると、二人の共通の目標を持つようになります。

火星と金星のアスペクトが九十度・直角です。直角に離れている関係では、二人は異なるものを持っているので、恋愛初期はお互いの異なるものが刺激となる相性です。肉体関係を持った後も、しばらくの間は、相手の未知の世界からの刺激が強くなります。ところが慣れてくると、もともとお互いが異なるタイプなので、衣食住の価値観の違いが徐々に明確になってきます。すると合わないことが沢山でてきます。

火星と金星のアスペクトが百二十度・百二十度は六十度の二倍なので六十度と似ています。ですから恋愛初期は手伝ったり助けられたりという関係です。肉体関係を持った後は肉体的な喜びを共有できます。最後に慣れてくると、例

例えば子供ができるとお互いの役割分担が非常に明確になり、お互いに尊敬し合うようになります。

火星と金星のアスペクトが百五十度、恋愛初期は、お願いしたりお願いされたりの関係です。肉体関係を持つて最初の頃は、もともとお願いしたりお願いされたりですから、ちよつとリズムが合いません。そしてイライラ感が徐々に増していきます。最後に慣れてくると、どちらかがリードし、どちらかがリードされ、上下関係に近い関係になります。

火星と金星のアスペクトが百八十度、火星と金星が全く逆、真向かいの星座になる場合です。根本的に正反対で全く異なります。恋愛初期はそこに恋愛の刺激を感じます。肉体関係を持ったころはお互いの欲望をぶつけ合います。

最後に慣れてくると、お互いもともと違うので、お互いの独立と自由を認めます。

男女関係と親子関係に共通する最高の状態とは？

男女の相性判断をするときに、どういう状態が最終的に一番良い相性なのかといえれば、最終的には相手をどこまでも信頼する状態が一番だといえます。自分の気に入ることや都合のいいことだけを信頼するものではありません。相手が夜遅く帰ってくる、酒を飲んで帰ってくる。異性と交際して帰ってくる、もしかしたら風俗に行つて帰ってくる、もしかしたら浮気して帰ってくる。それでも信頼するのです。そして相手を自由にしておくのです。これが最高の愛の形です。これが男女関係の最高の形ですが、親と子の関係の最高の形もこれと同じです。子供を勉強ができないから心配する。スポーツが他の子供よ

り上手にできないと心配する。「どうしてあなたはできないの?」「あの子
できるのにどうしてできないの?」「こういう心配は本当の愛でしようか?
実はこれは愛ではありません。「心配する」とお母さんたちはよく口にしま
すが、これは本当は子供を信じてない証拠なのです。口やかましく「あれし
ろこれしろ」といろいろ言ったり「手洗ったの?爪切ったの?鼻かんだの?」
いちいち命令したり指示するお母さんがいますが、これは口うるさく言うこ
とで子供がよくなると勘違いをしています。よけいなことに口うるさいのは
子供を信じてない証拠です。「信じてない」ということは「愛がない」と同じ
です。ですから口うるさい育て方をされた子供はよくなりません。自由でな
いからです。不自由な環境で育つ子供ですから、よくなるわけがありません。
子供が勉強できなくても信頼する、勉強ができて信頼する。顔の表情を全
く変えず、いつも同じ表情で何があっても信頼している、何があっても自由

にさせてあげる、失敗してもかまわない、そういう内容が最高の愛の形といえます。

■「結婚に向かうべきでないとき、それはどういうとき？」という占い心理学的解決法

これも正法と奇法の答えがあります。まず奇法による答えは既に決まっています。「結婚に向かうべきではないとき」の答えに占いは全く関係ありません。まず相談者がなぜ結婚したいのか、その動機をみます。相談者の結婚したい動機が「相手によって自分を幸せにしてほしい」というものならば結婚に向かうべきではありません。相手からみればとても迷惑です。自分は幸せ

でないということです。「幸せではない私と結婚して欲しい」というのは相手にとって、不幸な人間と結婚することですから、これは大変迷惑な話なのです。「自分が幸せだから相手も幸せにしてあげる」とか「どうすれば相手を今より幸せにできるのだろう」「私と一緒になれば今より間違ひなく相手は幸せになる」こんな気持ちがあれば結婚に向かうべきです。

ですから「結婚していいですか？結婚しないほうがいいですか？」と相談されたときには「あなたは相手をどのくらい幸せにすることが出来ますか？」と質問してみるのです。普通の人はほとんどの場合、そう考えたことがあります。まず考えることは「私を幸せにしてほしい」とか「私が幸せになるか」ということばかりです。相手が幸せになれるかどうか考えている人はほとんどいません。自分勝手なのです。

・結婚のタイミングの問題をホロスコープの土星の星座を使つての解説する

以上の内容を踏まえて正法を使いながら解説していきます。相談者の土星がどの星座に入っているかで判断します。土星には障害・困難・邪魔するものという意味があります。

おひつじ座・目的に向かつて夢中になる星座が邪魔されているのですから「あなたは結婚以外の何か違うことに一生懸命になっているので、結婚に向かうべきときではありません」と言えはいいのです。

おうし座・物質欲を意味します。ですから「まだまだ買いたいもの、欲しいものがありますよね？結婚よりもまずそちらを優先させなさい」と言えはいいのです。

ふたご座・自由でありたい意味があります。ですから「まだまだ結婚に縛られず、自由でいたいならそうしなさい」と言えばいいのです。

かに座・仲間と一緒に湧き合い合いと群れて楽しみたい意味です。ですから「仲間との関係を楽しみたいなら、まずそれを優先させなさい。まだ結婚に向かうべきでない」と言えばいいのです。

しし座・新しい環境を求めているときです。「結婚意外にも新しい環境や仕事を求めているのではないですか？もしそうなら、まだ結婚に向かうべきときではありません」と言えばいいのです。

おとめ座　いろいろ分析します。「結婚をあなたなりに分析して計算して算盤を弾くと心配事がいっぱいあるんでしょ？だったら今はやめなさい」と言え
ばいいのです。

てんびん座　バランスの星です。「友人や会社の同僚で結婚している人を実際
に観察して、自分が結婚生活をできるかどうかを確かめたい思いがあるなら
やめなさい」と言えばいいのです。

さそり座　魂の触れ合いを求めます。「人とは何か？人生とは何か？男と女と
は何か？とかまだまだ求めたい気持ちが強いので、結婚はまだ早いです」と
言えばいいのです。

いて座、「生涯の目的や、自分の趣味が何か？まだまだ考えたい思いがあるので、まだ結婚に向かうときではないです」と言えはいいのです。

やぎ座、「結婚は社会的な責任が発生するもので、その責任をまだ取りたくないという思いがあるなら、まだ結婚に向かうべきときではありません」と言えはいいのです。

みずがめ座、「多くの人と交友関係を広げたい気持ちが強く、まだまだ結婚に束縛されたくない思いがあるので、まだ結婚に向かうときではありません」と言えはいいのです。

うお座、「今の社会の歪みに非常に不満を感じています。何か社会的なことを

やりたいと思っているのなら、まだ結婚に向かうときではありません」と言えればいいのです。

最初に説明したように「結婚したほうがいいですか？悪いですか？」と相談に来た時点で、ほとんどの場合、相手が自分を幸せにしてくれるかどうかを悩んでいるのです。これは相手にとっては迷惑なことです。ですから相談者には「まだ結婚に向かうべきときではありません。もう少し自分を磨きなさい」と言えがいいのです。もし相談内容が逆で「私は幸せです。相手をもつと幸せにしたいのです。どうしたらいいでしょうか？」という質問には「今すぐ結婚しなさい」と言えがいいのです。

■「あの人と別れたほうがいいですか？」 占い心理学的解決法

相談者の頭の中は分かれるべきか、続けるべきかという二分思考でいっぱいになっています。このように発想が二分思考になっている時点で、相談者の脳は駄目な状態なのです。誰かに別れ話の相談するということは、その時点で既に答えは決まっているのです。この相談者は本音では別れたいと思っています。ですからこういう相談を持ちかけるのです。だから答えは「別れなさい」です。続けなさいと言う必要はありません。本人の本音が「別れたい」という相談ですから、答えは「別れなさい」でいいのです。ただ実際の相談の場面では、相談者はグジグジといろいろ言ってきます。なぜなら相談者の心は相手への強い依頼心で固まっているからです。自分で決断して生きていく自立心ができてないのです。ですから依存心を消して、自立心を刺激する回答をしなければいけません。

・「あの人と別れたほうがいいですか？」を四柱推命の毎年の運勢で解説

比劫の運「異性から独立して別れるときです、うまくやりなさい」

食傷の運「おそらく異性から傷つけられていますね。ですからもっとおおらかなタイプの異性のほうがいいですよね？だから別れなさい」

偏財の運「社交性の運がありますから、もっといい異性がいると思っっているのでは？そう思うなら別れなさい」

正財の運「そろそろ落ち着いて結婚してもいいという意味ですが、今の恋人

との結婚生活は考えたくないのでしょうか？そう思うなら別れなさい」

偏官の運 「自分を変えていく意味ですから、今の恋人と一緒にいてもあなたは変わりません。本当なら、もっと変化してもいいと思っていませんか？そう思うなら別れなさい」

正官の運 「周りの人達から祝福されるという意味ですから、今の恋人は、例えば親兄弟から祝福されない相手ではないのですか？そう思うなら別れなさい」

印星の運 「楽しいという意味ですから、思ったほど今の恋人と一緒にいても楽しくないでしょ？もっと楽しい相手がいると思うなら別れなさい」

このように年運を便法として使えばいいだけです。第三者に別れを相談するということは、本人が必ず「別れたい」と思っているのです。ですから「あなたの思っているとおりですよ」と答えればいいのです。この相談の本当の問題点は、男女問題のうんぬんではなく、自分の人生を第三者に依存していることなのです。依存心が抜けないというのが、相談者の心の深いところにある本当の問題は、自立して生きられないことです。ですから相手と別れるとか別れないというのは、本当はハッキリ言ってもよいことなのです。たとえ相手がどんなパートナーであったとしても、相談者の人生は相談者自身が責任を取らなければいけないのです。「自分の人生を他人に依存してはいけない」というのが結論です。「何があっても、あなたの命はあなたが守りなさい」という方向に頭を転換させていくことです。

■「結婚は早いほうがいい？遅いほうがいい？」占い心理学的解決法

まず占いと全く関係ない観点から説明してみます。生まれつき性エネルギーが強い人の場合、（これは本人自身が分かれます）これを解決するのに全く異なる二つの手法があります。一つは性エネルギーが強いので、早めに身を固める選択です。このタイプは、どうしても性そのものに関心が向かいやすいので、例えば高校生や大学生のころから婚約をして、社会人になったらすぐに結婚生活を始めるという方法があります。これによって性エネルギーがおかしな方向へ行くのを防ぐことができます。結婚のパートナーによって性エネルギーが満足する。そういう考え方が一つです。

もう一つは、こういうこともあるのかと参考にしてほしいのですが、若い時

代に性エネルギーを禁欲することには実は意味があるのです。禁欲とは性を我慢するということですが、ある若いときから宗教団体に入っていて、二十歳前半から三十歳半ばくらいまでの間、女性をみてはいけない、女性に触れてはいけないという、出家した世界で生きていた人達がいいます。もともと性エネルギーの強い人が若い時期に禁欲をすると、四十歳後半から五十歳過ぎてもパワーが出てくるのです。パワーが残っているのです。禁欲していた人達は同年代の人と比べて明らかに社会的なパワーがあります。

おそらく人間の生まれつき持っている「精」の大きさは決まっています、それを若いときに消耗するのか、それとも禁欲して中高年までパワーを引っ張っていくのかの違いがあるのです。ですから結婚の時期に関しても、性エネルギーが強いから早く結婚するのが良いという発想がまず一つ、そして男女のまぐわい以上に、社会的な事業とか何かをやってみたい人には、若いときに

禁欲するのも一つの選択だといえます。禁欲している間、異性に向かうエネルギーを自分のやりたいことに使うのです。すると中高年になってもパワーが衰えません。

また生まれ持った性エネルギーがもともと弱い人は、生きるエネルギーも弱いのです。そういう場合、早めに結婚してパートナーからエネルギーをもらうという発想もあります。ただし、占いの現場に持ち込まれる結婚の時期に関する悩みのほとんどが、ここまで考えなくてもいいレベルの悩みです。自分の損得をメインに結婚を考えてしまうので変な悩みが発生してしまうのです。ですから結婚相談の場合「結婚を損得勘定で考えるな！」と言わなければいけません。

■「早婚と晩婚どちらがいいのでしょうか？」 四柱推命的応答話法

甲「頭の中でいろいろ考えて理想を追いますので「理想を追い過ぎるな」と言えばいいのです。

乙「とても慎重で周囲の目を気にし過ぎるので、「周囲の目を気にするな」と言えばいいのです。

丙「もともと性エネルギーは強いので、いつでも結婚できます。「あなたが思ったときに結婚しなさい」言えばいいのです。

丁「異性にもてますから「仲の良い異性はすぐできるので、結婚しなさい」と言えばいいのです。

戊「束縛されるのが嫌いですから「結婚すると家庭に束縛されると思い込むな」と言えばいいのです。」

己「人間関係や感情がグチャグチャなるので、「あの人がいいのか？この人がいいのか？」ととても迷います。ですから「迷うな！迷うことが駄目なのです」と言えばいいのです。」

庚「基本的に相談に来ません。」

辛「結婚して経済力がないとグジグジ不平を言います。ですから「相手に経済力があるなら結婚しなさい」と言えばいいのです。」

壬「喧嘩っ早いので、同じ土俵の上で喧嘩にならない相手との相性がいいです。「カチンと反応しても向かってこない相手『何怒ってるの?』くらいに肩透かしをする相手なら結婚しても大丈夫です」と言えばいいです。

癸「相手がとにかく楽しい人なら結婚しても大丈夫です」と言えばいいです。

普通の結婚相談であれば、この程度知っておけば十二分に対応できるはず
です。

「必要なパートナーとはどんな人？」のお悩み解決

■「あなたに必要なパートナーは？」という相談へのアドバイス

パートナーとの相性を考えるときの発想は仕事も恋愛も根本的には同じです。まずパートナーと溶け合うことが第一です。心が溶け合うことです。異性の場合では肉体も溶け合います。そして溶け合った結果、考え方が大きくなり安定します。これは自然現象も同じです。異なるもの同志がパートナーとして溶け合うと、考え方や行動が大きくなり安定します。これは非常に重要な発想なので、事例を挙げて説明します。

水素原子にみる「溶ける」と活動範囲のひろがり

水素は、一個の水素原子の周りを一個の電子がグルグル回っているだけで、これに、もう一つ別の水素がくつつくと、電子の行半径が大きくなります。水素原子二つと電子が溶け合った結果、行動範囲が大きくなりました。さらに炭素がくつつくと、 CH_4 （メタンガス）になります。こうなると電子は、さらに大きくなり、より自由自在に動き回ることができます。これを人間に置き換えると、自分の周りをグルグルまわっているだけでなく、より大きく運動できるので、発想や考え方も大きくなっていく状態です。そしてより安定しています。そこへ、さらに酸素がくつつくと $\text{CH}_3\text{—OH}$ （メタノール）になります。気体から液体になり、より安定します。そうなると電子はグルグルと、より一層大きく運動できるようになります。活発に運動できる程、発想も大きくなり安定の度合いが大きくなります。このように異なるものが一緒にあって溶け合おうと、どんどん大きくなり安定するようになるのです。こ

のことを踏まえた上で、四柱推命の十二運星を使い、あなたのパートナーを探してみます。

■「私に必要なパートナーとはどんな人？」 四柱推命的応答話法

胎「あなたは誰もやったことのないことをやりたがる独自性を持っています。ですから『そんなに独自性は無くてもいいから、ゆったりおっとりやろうよ』という人が、あなたに必要なパートナーです」

養「あなたは感情表現がとても豊かです。ですから礼儀を大切に、折り目正しい人が、あなたに必要なパートナーです」

長生「あなたは表裏が無い素直な人です。ですから、用心深く駆け引きができる人が、あなたに必要なパートナーです」

沐浴「あなたは新しいものに興味があり、ドンドン好奇心が湧いてきます。ですから、同じことを淡々と真面目に繰り返すことができる人が、あなたに必要なパートナーです」

冠帯「あなたはカッコばかりつけて、面子にこだわり過ぎるところがあります。ですから『面子なんか大したことないよ。情緒を大事にしましょう』という人が、あなたに必要なパートナーです」

建禄「あなたは完璧でありたいという欲求が強いです。ですから、いい意味

でこだわりのない人が、あなたに必要なパートナーです」

帝旺「あなたは何かに夢中に組みますが、だいたい大雑把です。少しボーっとしている感じがあります。ですから、心配性な人があなたに必要なパートナーです」

衰「あなたは過去をいろいろと振り返って経験から判断をしていきます。ですから前しか見えない人、過去を一切振り返らず前進する人が、あなたに必要なパートナーです」

病「あなたは非常に神経質です。ですから、少し鈍いくらいの人が、あなたに必要なパートナーです」

死「あなたはコツコツと同じことを続けることができます。ですから、次々と新しいことを始める、めまぐるしく動き回る人が、あなたに必要なパートナーです」

墓「あなたはポーカーフェイスで、感情を内側に隠します。ですから、喜怒哀楽の激しい人が、あなたに必要なパートナーです」

絶「あなたはしがらみや常識を全く気にしません。ですから、常識的で自分をコントロールできる人が、あなたに必要なパートナーです」

このように、自分と反対の性質を持っている人と、溶け合うことができれば、

全体として大きくなり二人分の世界を味わうことができます。自分一人だけでは味わえなかった世界でも、パートナーがいることによって、世の中をより大きく味わうことができます。これがパートナーの仕組みであり、仕事と恋の場面に共通して応用できる発想です。

■占い理論が教える理想の相性とは？

正反対に位置する相手が理想の相性

最初にホロスコープの星座でみてみましょう。正反対に位置する星座の性格は、簡単には理解できません。例えば、私(天野氏)は射手座の同じ度数に火星、水星、木星と星が三つ集まっています。ですから目標に向かってまっしぐらに

突き進む性格です。これの正反対にあるのが**双子座**です。いつもクルクル変わるタイプですが、射手座からすると、双子座の人を理解するのが非常に困難です。実は、筆者の元妻が双子座です。ですから対極の星座を理解する難しさを、身を持って実感してきました。それでは射手座と双子座が結婚したら、結果どうなるでしょうか？全く正反対で、理解できない相手と毎日常生活を共にするわけです。ところが時間の経過とともに、だんだんと「ああ双子座とは、こういうタイプなんだな」と、理解とまでいかなくとも認められるようになっていくのです。そして、相手の行動を許せるレベルまで自分が変わってくると、相手の全てが自分の手の中に入ってくるのがわかります。もともと正反対の極と極の相手ですから、結果として十二星座全部の性質が手の中に入ってくるのです。いわゆるこれが「人格が完成する」ということです。仏の道とか、聖書でいえば十二の真珠門の完成と同じことですが、これを実践するのは甘

くはありません。

これを十干で説明してみます。「甲なら己」「乙なら庚」「丙なら辛」「丁なら壬」「戊なら癸」というふうになんぞにそれぞれ正反対にあるのが干合干です。四柱推命の原書には「干合干だから相性がよい」と書いてありますが、それは半分だけ真理です。

例えば「甲」は理論的で読書好きですが、ものごとを理屈で考える人が、感情をどんどん表に出して、何でも好き嫌いだけで判断するような「己」の人を、好きになると思いますか？ こういう二人の相性が本当に良いと思いますか？ 実際は、性格が全く違うため、理解し合うことができません。一方、不思議と一緒になってしまう関係でもあります。ですから**原書の言う「干合」とは「全く正反対の資質を持っているものが、不思議と一緒になってしまう」という意**

味です。これは、相性が良いこととは別の話しです。原書のいう「相性が良い」とは、「訳の分からない相手と一緒にあって、お互いを理解する修行ができる関係」ということを相性が良いと示しているのです。

筆者は日干が壬です。常に時代の先を読んで、時代をつくっていくタイプですが、反対の位置にあるのが丁です。穏やかに、のんびりいきましようという人ですが、私の元妻が日干が丁の十二運星が帝旺でした。筆者の胎の正反対が帝旺。お互いを理解することが大変難しい関係です。

胎は、常にオリジナルのものをつくらうとします。仕事でも他社の真似はせず、全てオリジナルで他社がやったことがないからやるタイプです。正反対に位置するのが帝旺です。ですから、筆者の場合、自分が全く理解できない宇宙人と結婚してしまったようなものです。そのため一生懸命相手を理解

し、認める努力が必要です。しかし、そこから逃げ出さず、理解する努力を続けていくと、ドンドンと自分の器が大きくなっていくのです。自分の器を大きくするための修行が、原書の暗示する相性の原理であり、結婚の原理と思っただけがいいのです。二十二年間、相手を理解しようとしていましたが結局、分からないまま離婚となってしまいました。

そのため「私とあの人は相性がいいんでしょうか？」と相談を受けたとき、相談者の口から「あの人が理解できません」とか「あの人の言ってることがわからないです」「あの人の行動がわかりません」という言葉が出てきたら、「ああうらやましい、相性がいいですね。修行になっていきますね」と答えればいいのです。「あの人のことは、十分よく理解できます」という状態では、修行になっていません。その場合「相性悪いですね」と言えばいいのです。

この原理を通変星で応用してみます。通変星には比劫、食傷、財星、官星、印星のそれぞれのグループがあります。例えば、筆者は財と官が強いですから、逆の比肩・劫財や印星が理解しにくいです。ですから理想の結婚相手としては、反対のタイプの通変星を持っている人がベストでしょう。その人と一緒なると、全く理解できず修行になるので「いい相性」なのです。しかし実際のところ、筆者の元妻は同じタイプの財星でしたが、常に先行投資をして未来を作っていくタイプの筆者と、常にお金を使いたくない元妻との間では、理解しあうことができませんでした。理論と現実とは、なかなか一致しません。

■「あなたの結婚相手はどんな人？」占い心理学的解決法

まずホロスコープを使った正法から説明します。女性からの相談を受けた場合、パートナーとなる男性を象徴するのは火星です。逆に男性から相談を受けた場合、女性を象徴するのは金星です。ですから女性から相談を受けたときには、女性の火星の位置に入っている星座が何かで判断をします。男性から相談を受けた場合、男性の金星の位置に入っている星座が何かで判断をします。正法は一種のパズル脳の発想ですから、現実には、このとおりには上手くいきません。しかし正法ですから、一通り簡単に説明していきます。

おひつじ座（男性なら金星、女性なら火星）、「勇気があり独立心を持っている人が、あなたの結婚相手です」

おうし座 「落ち着いている人が、あなたの結婚相手です」

ふたご座 「敏感で変わり身の早い人が、あなたの結婚相手です」

かに座 「人を安心させる風貌や雰囲気を持っている人が、あなたの結婚相手です」

しし座 「人目につく華やかさを持っている人が、あなたの結婚相手です」

おとめ座 「細かいところまで気を使う分析的な人が、あなたの結婚相手です」

てんびん座 「人間関係のバランスをとることができる礼儀正しい人です。」

ちよつと固い感じがありますが、その人が、あなたの結婚相手です」

さそり座「魂と魂の触れ合いを極端に求めます。非常に勘も鋭いです。相手がちよつと浮気っぽい気持ちになれば、簡単に見抜いてしまうような勘の鋭さを持っている人が、あなたの結婚相手です」

いて座「目的に向かってまっしぐら、というタイプが、あなたの結婚相手です」

やぎ座「融通がききません。信念を持っています。それに対して100%自分で責任をとっていく人が、あなたの結婚相手です」

みずがめ座「人を大切にするので、人から好かれます。また、現実の生活感

があまりしない人です。どこか浮世離れした雰囲気の人ですが、その人が、あなたの結婚相手です」

うお座 「世俗的なことにあまり関心がありません。それよりも人類愛に関心を寄せているような人が、あなたの結婚相手です」

このように解説するのが正法です。

次に奇法による説明をします。正反対の性格の人が相性がいいという原理を応用すると、例えば牡羊座の反対にあるものが天秤座です。バランスをとる星座と、バランスをとらない星座です。バランスをとる人には、バランスのとれない人が結婚相手となり、バランスのとれない人にはバランスがとれ

る人が結婚相手となります。

おひつじ座とさそり座・勘が異常にするどい人には、勘の鈍い人が結婚相手にいいのです。

ふたご座という座・目的に向かってまっしぐらの人には、変わり身の早い人が結婚相手です。

かに座とやぎ座・蟹座は人を安心させるので人が寄ってきます。真反対は山羊座です。信念が強く、あまりにも責任感が強過ぎて、怖い顔をしているような人が結婚相手です。「ねばならない」の部分が強すぎる人には、ゆるゆるとした雰囲気の人が結婚相手です。

みずがめ座としし座・人をととても大切にする人には、逆に自分のやりたいことをやる人が結婚相手にいいのです。

おとめ座とうお座・非常に細かく現状分析して気を配っている人には、全く現実に関心がなく「人類愛だ、博愛だ」と言っているような人が結婚相手にいいのです。

■パートナーは理解できない

自分には理解できない相手を、完全に理解するところまでいかなくとも、認められるようになることが重要です。なぜなら、これが結婚の意味する本当のところだからです。つまり結婚は修行なのです。自分の器を大きくするた

めの修行です。西洋占星術的にいえば、結婚とは、十二星座の全部の性格を、自分の手の内に入れるための修行なのです。ですから相談者から「パートナーのやる事が理解できないのです」という言葉を聞いたら「ああいい修行してますね」と誉めてあげればいいのです。

■「あなたを幸せにしてくれる人はどんな人？」占い心理学的解決法

相談の内容は、「自分を幸せにしてくれる人は、どんな人でしょうか？」です。「私はあの人を幸せにしてあげられるでしょうか？」という質問はありません。全部自分のことです。「欲しい、欲しい、幸せが欲しい」という相談はあっても、「幸せをあげたい、あげたい」という相談はありません。ですから答えは決まっています。

甲「あなたはプライドが高い人です。ですから『実力もないのに、そんなプライド捨てたら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です。こんなふうに感情的に叱れるのは干合干の己です。『理屈ばかり言っていないで、人情的に考えたら』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにします」

乙「あなたのことを『なぜ周囲のことばかり気にしているの、やりたいことをやったらいいじゃない!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

丙「あなたのことを『思いつきばかりで行動しないで、きちんと計画立ててやったら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

丁「あなたのことを『好き嫌いばかりで判断しないで、もっと冷静になって合理的に判断したら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

戊「あなたのことを『意志が強いのはいいけど、あまり人の言うことを聞かないのは、ただの頑固者でしょ!頑固爺さん、頑固ばあさんでしょ!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

己「あなたのことを『いつまでもグジグジやってないで、人の悪口なんか言っていないで、一人でやってみたら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

庚「あなたのことを『直感でピンときて、ガンガンやるのはいいけども、たまにはじっくり考えてやってみたら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

辛「あなたのことを『周りばかり気にしないで、やりたいことをやってみたら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

壬「あなたのことを『これから先どうなるんだ?と計算ばかりしていないで、好きだったらやってみたら!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

癸、「あなたのことを『周りのご機嫌ばかりとってないで、もっと自信を持って信念を貫いてみなさいよ!』と叱ってくれる人が、あなたを幸せにしてくれる人です」

■「異性によって運が下がる時」占い心理学的解決法

異性によって運が下がる時とは、どういうときでしょうか? 答えは、「異性に対して依存心を持っているとき」です。自分の人生を異性に依存してしまふと運が下がります。また、異性に執着しすぎても運が下がります。異性の肉体に執着する。異性のお金に執着する。男性の場合、女性の肉体に執着します。女性の場合、相手が金持ちだったら相手のお金に執着します。これらは、全部エゴですから運が下がっていきます。依存したり執着すると、結果とし

て自分らしさを失ってしまいます。その結果、運が下がります。このことを十干を使って詳しく解説してみます。

甲「あなたは本来、非常に知的な人ですが、異性にのめり込んで、快楽に溺れる度合いが過ぎてしまうと運が下がります。甲の本来の良さが無くなってしまい運が下がります」

乙「あなたは異性にのめり込んでしまい、異性に誘われて、なんでも強引にやるようになると運が下がります」

丙「あなたは異性にのめり込んで、相手の気持ちを考えすぎて神経質になると運が下がります」

丁「あなたは異性にのめり込んで、義理人情を忘れてしまうと運が下がります」

戊「あなたは異性にのめり込んで、自分の意志より、他人の情に流されるようになると運が下がります。もともと意志が強いタイプですから」

己「あなたは異性にのめり込んで、地位や名誉を目指すようになると運が下がります。もともと地位とか名誉、ステータスにこだわらないタイプです」

庚「あなたは異性にのめり込んで、遠慮するようになると運が下がります。もともと人の気持ちなど無視して、ガンガンやるタイプです。『異性から嫌わ

れたらどうしよう』と思うようになり、遠慮がちになると運が下がります」

辛「あなたは本来、デリケートな人です。異性にのめりこんでしまい、他人の気持ちを見無視して、強引に物事をすすめるようになると運が下がります。もともとのデリケートな自分を無視したことになるからです」

壬「あなたはいつも将来について考え頭をめぐらせています。しかし、異性にのめり込んでしまい、『今日が楽しければそれでいいや』と、キリギリス的な発想になってしまふと運が下がります」

癸「あなたは異性にのめり込んで異性に従いすぎると運が下がります。周りのご機嫌をとるのがもともとの特徴ですが、度が過ぎてしまふと運が下がり

ます」

■「異性と恋に落ちるときのきっかけ」占い心理学的解決法

この場合も、恋愛だからといって特別変わった見方をする必要はありません。普段の価値観が恋愛の場面でそのまま出てきます。このことを四柱推命の通変星を使って解説していきます。

比肩・肩を比べるといふ意味なので、友達づきあいや競争相手が欲しいと思っ
ています。ですから、友人やライバルの関係から発展して、恋愛がスタート
していくでしょう。

劫財 目標に対して夢中になるタイプです。ですから、何かに夢中になって没頭しているとき、その仲間として知り合い恋愛がスタートしていくでしょう。

食神 食べたり飲んだりするのが大好きです。ですから、飲み食いとともにするところから恋がスタートするでしょう。

傷官 シャープな頭脳を持っています。そのため、どうしても議論しがちです。ですから議論をするような関係から恋愛がスタートするでしょう。

偏財 相手を教え導く立場から、恋がスタートするでしょう。

正財 相手から尊敬される立場として、恋愛がスタートするでしょう。

偏官―官星は従うという内容です。ですから相手からリードされる形で恋愛がスタートするでしょう。偏官は、どちらかといえば相手の持っている信念や理念、そういうものに魅かれていきます。

正官―どちらかといえば相手そのもの、相手の人柄に従っていきます。人柄がいいなと思い、惚れて従っていく形で恋がスタートするでしょう。

偏印―遊びが大好きです。ですから、遊びの中から恋愛がスタートするでしょう。偏印の場合、遊びとは、どちらかというところと快楽のことです。

印綬―遊び好きです。ですから、遊びを通じた出会いから恋愛がスタートす

るでしょう。この場合の遊びは、偏印と少し違い、趣味や学問分野などに関わる遊びのことです。

このテーマは「その人らしさが発揮されていれば、自然と恋に落ちる」が結論です。自分らしく生きていけば、自然と異性から好意を持たれます。

恋愛の悩みを抱えている人を分析してみると、「この人、食傷持ってるのに食傷らしくないね」とか「この人、比肩・劫財がいつぱいあるけど、比劫らしさがないね」という場合がほとんどです。その人らしさがありません。四柱推命の命式をみても、本人と全然違う場合がほとんどです。ですから「その人らしくあればそれでいい」が本当の答えです。

■「気になるあの人を、振り向かせるには？」 占い心理学的解決法

まずこういった質問は、ほとんどの場合、気になるあの人から「愛されたい」という、受身の心が動機になっています。根本的に、これでは駄目です。話になりません。「愛されたい」でなく「愛したい」という状態に心が転換しなければ駄目です。あの人から愛されたい、という受身の状態は「愛が欲しい欲しい」と言っていることと同じです。相手からみたら「あげなければいけない」ということで負担になります。そうではなく、愛情を与える主体となって「自分があの人を愛するには？」という悩みに変わらないと駄目です。悩みが間違っているのです。

ですから最初に、気になるあの人を命式を出して鑑定するのではなく、相談者本人の命式を出して「あなたらしくありません」と解答するのです。また上級者になると、さらに違った解答の仕方がありますが、それは後で説明します。

以下、相談者がどの通変星を持っているかによる、この相談の解答をみていきます。

相談者が比肩・相手との共通点をみつけて仲良くなりましょう。それが、あなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が劫財・何か夢中になっているものがあつていいはずですよ。ですから、夢中になっているものに焦点を合わせ、そこに気になるあの人を引っ張りこむのです。それが、あなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が食神・お酒でも飲んで、楽しく一緒に過ごせばいいでしょう。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が傷官、非常にシャープな感性持っています。いろいろと世の中で問題となっている事にも関心があるはずです。ですからニュースや時事問題の話しをします。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が偏財、相手が一体何を考えているのか、相手のニーズが何なのか、相手が何をしてほしいのかに関心があり、いつもみてます。ですから、相手の困っているところを発見してあげなさい。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が正財、もともと家庭的なセンスがあります。パートナーを持つ心地よさを訴えることです。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が偏官・信念とか理念に従うタイプです。ですから、まずあなたが信念とか理念をしつかり持って生きることです。そこに気になるあの人を巻き込んでいくのです。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が正官・人を尊敬できる才能を持っています。ですから、あの人のいいところを尊敬するのです。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

相談者が偏印・一緒に快楽を追及するのです。それがあなたらしい姿であり、愛しかたです。

相談者が印綬・楽しいことが大好きなタイプですが、どちらかといえば学問

とか趣味の分野に関心が向きます。ですから、何か学問や趣味の分野にあの人を巻き込むのです。それがあなたらしい姿であり愛しかたです。

「その人らしくありなさい」が結論です。「愛されたい、そのために何をやる？」という発想ではなく、こういう方法で愛しなさいという無理のない方法をアドバイスしましょう。上級者には、違う解答をします。上級者とは、既にいろいろな人間関係を経験して全ての価値観を自分の手の内に取得した人のことです。比肩、劫財、食神、傷官、偏財、正財、偏官、正官、偏印、印綬の全部の価値観を「うんそうだ、それでいいんだ」と認められる人です。そういう人は相手の価値観を素直に認めることができるので、「相手の生年月日を出して通変星をみればいい」が解答になります。

相手が比肩・劫財、「仲間である」という関係が好きで、自分との共通点を欲しがっています。ですから共通点をみつけてあげればいいでしょう。

相手が食神・お酒でも飲んで楽しくやるのが好きです。ですから、あなたがそれに合わせてあげればいいでしょう。

相手が傷官・批判的な面があります。何でも指摘するところがあります。ですから新聞に載ったニュースや事件などを、いろいろと議論したいと無意識に思っています。それに合わせてあげればいいのです。

相談者が偏財・自分の悩みを素直に相談してみればいいでしょう。

相談者が正財「私、あなたのいいパートナーになれるんじゃないですか？」
と言ってみればいいでしょう。

相談者が偏官「あの人は理念、信念に従って生きてます。「あなたの信じてる
理念と信念は何ですか？」と聞いてみるといいでしょう。

相談者が正官「誰かを尊敬したいという思いがあります。あの人から尊敬さ
れる人物になりたいと思えばいいでしょう。

相談者が偏印「快樂を求めて生きています。ですから「あの人が思う快樂とは、
なんだろう？」と一緒に快樂を追求したらいいでしょう。

相談者が印綬、何かを教えたり教わりたい人です。ですから「何かを教えてくださいませんか？」と学びを共有すればいいでしょう。

相手の生年月日を出して、相手の価値観に合わせてあげるのが上級者です。ただし、これができる人は絶対に悩みません。ですから人に相談することもありません。まして、占い師のようなどころには絶対に来ません。しかし普通の人は、自分の持っている価値観以外の人を許せません。「あいつの思いは間違いだ」と、決めつけてしまう場合が多いのです。

■自分に無い通変星の価値観を体得すると開運する

例えば、財星が強い人は「楽しんで金稼ぎたい、楽しんで何かやりたい」「苦勞するよりも快樂」という、印綬のなまけものの部分を目の当たりにすると好きになれないものです。「楽しんでどうにかしたい」という価値観を認めたくないのです。しかし現実では、そこを認めなければ人間関係がうまくいかないの
で認める努力をすることになります。すると、それが五年、十年続くと、印綬の発想も自分の手の中に入ってくるようになります。これにはやはり努力が必要で
す。

ほとんどの人の場合、自分の持っている通変星の月柱天干、年柱天干の二つが作用しやすいです。次に月支元命です。普通は最大理解できてもこの三つぐらいです。あえてもう一つみるとすれば時柱の通変星です。人によってはここが作用している人もいます。

普通の人の場合、多くても四つの通変星しか持ってないですから、それ以

外の通変星は理解できません。理解できないというより、認めることができません。さらには認められないというより、許すことができないといったほうがいいでしょう。

これは十干についても共通しています。続いて同じテーマ「気になるあの人を振り向かせるには？」を、十干を使って説明してみます。

あの人が甲・あの人自身には無い「己」のような性格が欲しいはずです。ですから親しみやすさとか、庶民的な雰囲気を出していくのです。そうすると相手から好かれるでしょう。（このケースで「私は己的な性格を持ってないですが、どうしたらいいでしょうか？」と質問されたら、「勉強して、これから修得するしかありません」と言えばいいです）

あの人**が**乙・あの人自身には無い「庚」的な性格が欲しいと思っています。ですから、決断力をアピールすればいいのです。あの人**の**気を惹くことができます。

あの人**が**丙・あの人自身には無い「辛」的な部分を欲しいと思っています。ですから、デリケートで繊細な部分をアピールすればいいのです。あの人**の**気を惹くことができます。

あの人**が**丁・あの人自身には無い「壬」的な部分を欲しいと思っています。ですから、どんどん新しいものに関心を持っていることをアピールすればいいのです。あの人**の**気を惹くことができます。

あの人が戊、あの人自身には無い「癸」的なものを欲しいと思っています。です。ですから控えめで、誰とでも仲良くなれる協調性があることをアピールすればいいのです。あの人を惹くことができます。

あの人己、あの人自身には無い「甲」的なものを欲しいと思っています。ですから、しっかりした目標を持って、それをきちんと計画して実行していくところをアピールしたらいいのです。あの人を惹くことができます。

あの人庚、あの人自身には無い「乙」的なものを欲しがっています。ですから、さりげない心配りができることをアピールしたらいいのです。あの人を惹くことができます。

あの人**が辛**あの人自身には無い「内」的なものを欲しがっています。ですから、明るくて、パワーがあるところをアピールすればいいのです。あの人**の気**を惹くことができます。

あの人**が壬**あの人自身に無い「丁」的なものを欲しています。ですから、穏やかで感情的にならないところをアピールしたらいいのです。あの人**の気**を惹くことができます。

あの人**が癸**あの人自身には無い「戊」的なものを欲しています。周りとの摩擦を気にしない、強い意志があることをアピールしたらいいのです。あの人**の気**を惹くことができます。

「自分の中に、十干全ての種類を修得して持っていれば、どんな相手からも好かれる」というのが結論です。ですから許せないと思う人や、嫌だから近づきたくないと思う人とドンドンつきあって、相手の性格を許す修行を積極的にしたほうがいいのです。

■「恋の発展をさまたげるウィークポイントとは？」 占い心理学的解決法

ここまで読み進めていただいて奇法の発想がわかってきたと思います。長所と短所は一体です。長所が短所であり、短所が長所になります。それぞれの星の意味が頭に入っていれば、ふさわしい解答が発明できます。では十干を使ってやってみます。

甲「あなたのちよつとストレートな言葉使いが問題です」

乙「あなたの『この異性は私のもの』という執着心の強さが問題です」

丙「あなたが、相手は自分の思い通りになると勘違いしているのが問題です」

丁「あなたは愛情表現するのが下手です。思い切つてやってみたらいいのです」

戊「あなたは人との信用を重視するばかり『何々やってはいけない』という道徳にとらわれやすいのが問題です。もっと自由になつたらいいのです」

己「あなたは、どちらかという楽しければいいという、ちよつと怠惰なところがありますがそれが問題です」

庚「あなたのあまりにも異性に強引すぎる面が問題です」

辛「あなたは深く物事を考え過ぎる心配性です。もっとリラックスしたらいいのです」

壬「あなたは強引に勝負をつけすぎるところがあります。異性との関係でも早く勝敗をつけたくになります。そのちよつと急ぎすぎるところが問題です」

癸「あなたは正直に異性の前に自分をさらけ出すことが苦手です。そこが問

題です」

■「あの人があなたと別れようと思うときはどんなとき？」占い心理学的解法

「あの人」の十干をみる場合で解説します。自分の欠点が相手に映し出されると「嫌だ」「嫌いだ」「別れよう」という思いになりますので、そういう観点でみていきます。

甲「ああ理屈っぽいな」と、自分に似ているところが嫌になり別れるでしょう。

乙「頭でっかちだけど何にもやらない」と、自分に似ているところが嫌で別

れるでしょう。

丙「ちょっとこだわりすぎじゃない？」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

丁「ちょっと心配しすぎだなと、自分と同じ心配性だな」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

戊「ちょっと信念固すぎる」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

己「好きだ嫌いだと感情的にうるさいな」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

庚「情が無いなあ、ちよつと冷徹すぎるな」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

辛「ちよつとデリケートすぎるな」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

壬「時代を先々読みすぎて、勝負を急ぎ過ぎるなあ」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

癸「あまりにもまわりに合わせすぎで正体不明だな」と、自分に似ているところが嫌で別れるでしょう。

このように発想していきます。

■「恋人をつくるにはどうしたらいい？」 占い心理学的解決法

まだ彼氏や彼女がいない人が相談にやってきたとします。この場合も答えは決まっています。答えは「あなたらしくあれ」が解答です。あなたらしくあればいいのです。「この程度ならあなたでできるでしょ？持って生まれた星ぐらいきちんと使いなさい」と四柱推命の通変星別にアドバイスして励ます感じです。

比肩「前進する勇気のないあなたって魅力ないね、とにかく前進しなさい」

劫財「スピード感のないあなたって魅力ないね、夢中になっているものがあるなら、さっさとやっつけてしまいなさい」

食神「人生をエンジョイしてないあなたって魅力ないね、毎日をもっと楽しみなさい」

傷官「自分の才能を發揮できにくすぶってるあなたって魅力ないね、もっと才能を發揮しなさい」

偏財「大人のものが見方ができないあなたって魅力ないね、善いとか悪いとか、そういう下らないことにこだわるのはやめなさい」

正財 「几帳面でないあなたって魅力ないね、計画的に人生を設計していきなさい」

偏官 「社会に適應できないあなたって魅力ないね、組織でうまくやっていきなさい」

正官 「細かい心配りができないあなたってなんかおかしいよ、周りに気配りをしていきなさい」

偏印 「サービス精神のないあなたって魅力ないわね、楽しくおかしくサービス精神いっぱいやっていきなさい」

印綬「困っている人をみて助けられないあなたっておかしいね、同情心を深く接していきなさい」

人の構造を知ると何が変わるのか？

不幸になる努力をしなくなる

人は皆、生まれてきた以上、幸せになる義務があります。幸せになるには、人はどういうときに幸せを感じるのかを知らないが無駄な努力をすることになります。人はどういうときに幸せを感じるのかを知るためには、人とは何なのか、を知らなければなりません。つまり、人の構造を知らなければなりません。努力しているつもりなのに、幸せ感がないという人は多いでしょう。孤独感を感じている人は多いでしょう。それで運命学（占い）や精神世界に関心をもったのではないのでしょうか。

占いを使って「当たる、当たらない」と言っている以上は、幸せになるための占いを使えていないのです。この「当たる、当たらない」の概念を、頭から削除しなければ、幸せになるための占いというのは使えません。なぜならば、「当たる、当たらない」は、ものごとを分けて考える二分思考なのです。このように分けてものごとを見つめると決して幸せになれないのですが、多くの人は、ここに気がつかないので努力が無駄になっているのです。二分思考の事例を紹介しましょう。

- ・ ものごとを良い・悪いで区分しないと気が済まない人
- ・ ものごとを損か得かでいつも考える人
- ・ 他人を自分より上か下かで判断する傾向の人
- ・ 徳か罪か、正義か悪かでものごとを判断する傾向の人

- ・物質か霊かを区分して考える傾向の人
- ・好きか嫌いかという点で人を判断する人
- ・儲かるか、儲からないかで頭が一杯の人
- ・明日がどうなるか知りたい欲求が強い人
- ・真理かそうでないかを分けて判断したい人

これらは、すべて二分思考です。この二分思考の罠にはまってしまった人は、本来の意味で、中央に座ることができないので、人生に勝利者になることができません。中央に座ることができないという表現を使いましたが、この真意は、心は極端から極端のどちらかに座りたがる性質を示しているということです。そして、常に極端から極端を動き回っているのが、心です。たとえば、好きとか嫌いといった感情は、短期間で変動しますから、何十年にもわたって継

続して心に害を与えるのは困難です。あの人が好きという感情だけで、何十年も結婚生活を幸せに暮らせることはできないのは、周知の通りです。また、あの人が憎いという男女関係の恨みでも、何十年も継続して人を恨み続けるのは困難であることも周知の通りです。

この二分思考は知的なレベルでも作用します。理論的な面で、二分思考の畏にはまってしまった人、理論が好きで、本を沢山読む人がこの畏にはまると必ずパワーダウンします。

二分思考でいる限り幸せになりえないわけ

もともと宇宙のシステムそのものに二分思考がありません。好きと嫌いと同じエネルギーで同じ歯車です。愛していると憎いというのも、同じエネルギーで同じ歯車です。貧乏と裕福も同じエネルギーで同じ歯車です。理屈を

言う人は、宇宙のシステムは、陰と陽に分けられると言うでしょうが、全ての存在は、陰と陽が統合している状態で存在しているはずで、男が陽で女が陰だと言う人もいるでしょう。しかし、**肉体は、男が陽で女が陰ですが、心は逆で、男が陰で女が陽です。**電話相談をしているカウンセラーに聞くと、いつまでもグジグジと悩みを相談したいのは男のほうで、男のほうが儲かるということ。女の人は、決められた時間がきたら延長しないで、さっさと電話を切るので儲からないようです。このように、肉体と心という面を統合すると、男を女を陰陽に分けることの無意味さが理解できるでしょう。せっかく統合している状態なのにわざわざそれを二つに分けて分析するから、幸せにならないのです。

二分思考にも、低位の感情レベルのものと、高位の知的レベルのものがあ

ります。知的レベルのほうが、治療は困難なのです。知的レベルの二分思考の罠にかかっているかどうか？というのは、簡単に区別することができます。知的レベルの二分思考の罠にかかっている人は、必ずパワーダウンしています。色々知っていて、沢山本を読んで、沢山勉強していて、パワーダウンしている人は、この二分思考に引つかかっているのです。「自分は、もっと、認められてもいいはずだ」「自分は、こんなにも努力しているのに、今の状況にあるのは、自分以外の何かがおかしい」という不満をもっていることが多いのです。

それは、不正確な理解をしているがための結果なのです。または、もともと不正確な理論を信じてしまったための結果です。ここで不正確な理解という表現をしましたが、たとえば、マルクスレーニン主義を信じて、国家システムをつくってしまったソ連という国はパワーダウンしたことは、ご存じの通

りです。マルクスレーニン主義は、一見すると、理想主義のように見えますが、不正確なため、信じ込むと国家がパワーダウンするのです。また、市場原理主義、グローバリズムという理念も、不正確な理論です。だんだんと、パワーダウンしてくる兆候が現れてきました。世界は金持ちの国が地球を支配するのではなく、調和と協調を求めているように思います。

新興宗教の一見すると理論的で真理のように感じられる教義を信じ、自分は罪人だと確信し、毎日を、懺悔のような生活を送っている人も必ずパワーダウンしています。筆者自身が、そういう新興宗教に十年くらいどっぷりとつかっていたことがあるのですが、一流大学を卒業した人が多かつたように思います。その宗教団体に今の所属している友人が多数いますが、四十才を超えた今日、生活保護を受けている人が多いようです。また、癌で死亡する人も増

えています。信じられないかもしれませんが、宗教組織が教える神を信じて健康を害し病気になる、寿命を縮める人が多いのです。そういう人を観察していると必ず自分の本心からの叫び声にウソをつけて生きています。必ず周囲の評価を気にしています。ですから、周囲から見れば、善人に見えますが、それは演技であり本心を偽っているわけです。

古典的な占いの理論は、「当たる、当たらない」という目的でつくられていきます。例えば四柱推命なら、格局用神法、喜神・忌神、成敗、貴賤などで、○×をつけます。占星術であれば、アスペクト度数によって、○×をつけます。すべて、**○×を決定しなければならぬという脅迫じみた目的に向かって、間違った方向で進化してきたのが、占いの理論です。**こういった理論を二十年間、研究しつくした結果、結論は、「当たる、当たらない」ということを目的として、

考えることが間違いだった、ということなのです。

「当たる、当たらない」という発想で占いに取り組む以上は、ものごとを分けて考える癖から脱出できないので、幸せになれないという結論です。ただ、こういう考えを公表すると、「当たる、当たらない」の占いで生活している人もいますし、お客さんもまた、それを求めてきますので、あまり公にはできないのですが、「当たる、当たらない」という概念から脱出できない限り、絶対に開運しないのです。占い産業で仕事をスタートして二十年以上になりますが、当社のお客様は五万人を超えました。しかし、この五万人のお客様のなかで、本当に開運した人がほとんどいないという現実があります。悩んでいる人が占いを真剣に学習したために、当たる技法を探しまくるワナに入っ
てしまい、運を下げる人の方が多くいます。さらには、四柱推命の命式が悪いから自分はお金儲けができない、彼女ができない、こんな命式の日に

自分を生んだ親が悪いという努力しない口実に占いを使っている人が多いのです。

幸せになるには二分思考を脱出しないとイケない

幸せになるには二分思考を脱出しないとイケませんが、それが進化です。それでは、「人の進化」とはなんでしょか。進化とは、「より大きな生命体の一部として自己を認識し、自己を非自己化する」ことです。つまり、「自己と非自己を統一すること」これが進化の定義なのです。

分かりにくい抽象的な表現になってしまふのですが、自分の人生に置き換えて考えてみてください。自分にとっての「大きな生命体とは？」この考え方の根底にあるのは、人は自由意志を持った生き物です。自分の人生を自由に考えていい、自由にやっつけていい、そういう権限を与えられた存在が人です。

当たり前のようにですが、自由に生きていない人がほとんどです。もし、一緒に住んでも楽しくない夫、妻と一緒に住んでいけば、自由ではありませんね。親の介護をしたくないのに、義務だからという理由で介護をしているば、自由ではありませんね。会社の仕事が目白くないのに、仕方ないからという理由で会社に行くのは、自由ではありませんね。新しい仕事に変わりたいのに、勇気がないから変われないというのは、自由ではありませんね。子供を生みたいのに、仕事があるから生めないというのは、自由ではありませんね。

また、「より大きな生命体」についてという言葉から何を連想するでしょうか。「宇宙」だとか、「人類」だとか、といった日々の生活の中で、実感できないものに置き換えている限り、幸せになれないのです。もつと、日常生活そのものに関連があつて、具体性がないと、「より大きな生命体」とは言わないのです。リアリティのない言葉というのは、幻覚です。一日仕事をして、家

に帰って落ち着いたらやっと「宇宙」のことを三十分だけ考える、空いている時間があったら考える、この程度では、「より大きな生命体」とは言わないので、進化できるわけがないのです。一日二十四時間、一生懸命考えないと無理なのです。「より大きな生命体」とは、自分の現在所属する組織であったり、チームであったり、集団であったりといったところで考えるほうがいいのです。組織の一部、一スタッフとして、その組織の持つ目標に向かって自己を認識し、自分の個性を認識し、自己を非自己化するということです。組織の一員、大きな目標のために自分を非自己化することが、うれしい、幸せだということなのです。

今の若いサラリーマンをみていて、組織の歯車の一部になっていて、楽しいという人は少ないように思います。つまり、自分にとつての「より大きな生命体」は、会社ではないという人が増えてきています。ですから、その会

社の常識的なルールや、習慣に反発する若い人が多いのではないのでしょうか。家族のため、住宅ローンがあるからという理由で、サラリーマンを三十年間つとめてきた五十代の団塊の世代の男性と話すことも多いのですが、脳の思考回路が完全にその会社やその業界のルールに洗脳されています。その状態で独立したいという相談があるのですが、この洗脳を削除しない限り、独立は無理だと回答しています。

例をあげると、一流企業の、稟議システム、会議システム、ものごとの進め方、予算システム、会計システム、こんなものが、社長しかいない一人会社で通用するわけではないのです。前の会社がこうだったから、という洗脳状態から解放されない限り独立は無理でしょう。独立して成功しているのは、前の会社のシステムが気に入らず、上司や体制に反抗的であり、常にトラブルメーカーであり、自分が社長ならこうすると何十年にもわたって体制に染まらず

に、自分の魂から刺激されるビジョンを明確に描いてきた人です。完全なる自由と完全なる責任の両方を要求してきた人です。そういう人は、だいたい上司から疎んじられます。組織にとっては組織に迎合しないので扱いにくい存在です。

私も、上場企業で十年以上、サラリーマンをやっていたので、名刺で仕事をする（会社の力を自分の実力と勘違いする）という垢を落とすのに苦労したということをおきまします。上場企業で教えられたビジネス習慣は、独立するとはほとんど通用しませんでした。通用するのは、こつこつと習得した科学分野の技術だけでした。

「自己を非自己化すること」は、仕方なくするものではないのです。仕方なくやるなら、やらないほうが、開運の可能性があります。人は自由意志を持った生き物なので、「自己を非自己化すること」は無理矢理やる

ものではなく、自分の自由意志でやるものなのです。つまり、やりたくてやりたくてしかたがない、より大きな目標のために自分を喜んで犠牲にするところが、進化へのプロセスなのです。こうなったとき、努力しなくても、いつの間にか二分思考から脱出しています。

人だけが完全な自由を与えられているということにくれぐれも忘れないでください。何を食べるのも自由です。いつでも異性と愛を交わせます。自然を破壊することも、地球を破壊することも、他の惑星を破壊することもできるほどの自由を人は与えられています。この自由な意思を尊重しないとなりません。地球上の人以外の生き物は、異性と愛を交わせる時期は決まっています。変えられません。牛が肉を食べる自由はありません。ライオンが草を食べる自由もあります。どんなに暴れたとしても自然を破壊し、地球を破壊するまでの自由な能力は与えられていません。

物質でさえ自由を楽しんでいる

人の進化を知るには量子力学の進化の法則をすることで理解できることがあります。量子力学と人類の進化はともよく似ている構造をしているからです。原子は自由で好奇心旺盛で、わがままでパートナーを探し続けています。この性質を、つくっているのが自由電子です。自由電子の性格を知れば、物質でさえ自由を楽しんでいることがわかります。自由で気ままに好奇心が旺盛で、より大きな質量を求めてくっつく性質のものが自由電子です。たとえば、水素原子からメタンガスに大きく発展する経緯を見てみましょう。

- ・ 水素が水素のままなのが、楽しいかどうか。 ↓ 楽しくない。
- ・ 炭素が炭素のままなのが、楽しいかどうか。 ↓ 楽しくない。
- ・ 水素が水素であることを自己否定し、より大きな生命体のために喜んで奉仕します。

・炭素が炭素であることを自己否定し、より大きな生命体のために喜んで奉仕します。

このように水素と炭素の二つが非自己化し、融合するとメタンガスになります。このときに、水素も炭素も、より大きな生命体になる為に喜んで自己否定しています。進化してパワーアップしています。水素も炭素も開運して幸せである。自己を犠牲にしても不満はないのです。パワーアップの法則とは、より大きな生命体のために奉仕すると、パワーアップしてくるという簡単なものです。

自分をより大きな生命体のために、非自己化することは幸せなのです。本当の自己否定とは、このようにパワーアップしてゆくことを言います。自己否定、自己犠牲、奉仕などという言葉を、正確に理解しないで行動している人は、

どこか不自然で、喜んで犠牲になっているようには見えません。

「より大きな生命体」という認識がずれていれば（宗教をやっている人に多い）、ただひたすら「己」を消滅させることに専念しても、「より大きな生命体」に変化することが出来ないのです。ハッピーではないのです。ですからパワーが出てこないのです。「より大きな生命体」のために奉仕し、パワーアップしてくると、具体的には、年収がアップというかたちで変化が現れます。収入が増え人脈が広がるのです。「より大きな生命体」を勘違いしていると、収入が減り、友達を失い、付き合う人もレベルが下がります。つまりパワーダウンします。こういう人が奉仕、自己犠牲、自己否定などといっても、誰も説得はできません。新興宗教には、こういった勘違いをして人生をダメにする人が多いので、よく注意する必要があります。

エネルギーの低いレベルで安定し進化しない人も実際にはいます。起きて朝ごはんを食べて、仕事して食べて寝て、といった状態で満足する人は、きわめて安定していて進化は止まっています。だから悩みは発生しません。悩みがあるというのは、進化の欲望があるから悩むのであって、欲望がなければ悩みません。「より大きな生命体への奉仕」、これが進化の動機なのです。進化すると、より大きなパワーが発揮されます。パワーは絶対に低下しないのです。もし本当に、大きな生命体への奉仕ができているなら、必ずパワーが増大しているはずなのです。つまり収入がアップしているはずなのです。なぜならば、会社全体に奉仕したい、国際社会全体に奉仕したい、そのような奉仕への欲望が強くなってくるからです。ですから、本当に自己犠牲している人、本当に自己否定している人、本当に奉仕している人というのは、みんな明るい顔をしていて経済的には豊かです。自分の欲求から奉仕していることが収入に

つながるからです。

有名な人物で分かりやすい人を上げると、世界一の大富豪のビルゲイツが上げられます。彼はこの段階に入っています。四兆円の自己資産、そして世界第二位の金持ちである、ウォーレン・バレットから三兆円、を合わせて七兆円の資金で事業を始めました。彼の一番やりたいことは、先進国と発展途上国の格差をなくしたい、ということなのです。途上国の資源の九十パーセントを先進国のたった五パーセントの人間が搾取している、かたや金儲け、かたや貧困と餓え、こういった地球上のアンバランスの格差をなくしたい、という奉仕の思いに達しているのです。二十四時間、ビルゲイツは、地球に住む人類の平均化、資源の分かち合い、という大きな生命体のために働いているのです。もう少しいえば、巨大な物質を手に入れたために、巨大な霊的な仕事もしなければ人として生きていけない切羽詰った欲求があるのでしよう。こ

ういうレベルの人が、地球規模の奉仕をすることが出来るのです。

さて、こういう人の進化の性質について詳しい説明をしたからとって、あなたの運の何かは明日から変わるわけではありません。あなた自身の内面であな自身は何者なのかを発見するしかないので。あなた自身が何者でどんな火が燃えているのかはあなた自身しか分からないのです。たとえば、超能力者や霊能者があなたにアドバイスしたところで、実行しないと意味がないのです。むしろ、偉い人に自分のことを聞けば聞くほど迷いが大きくなっていくでしょう。

あなた自身が何者でどんな火が燃えているのか推測するには、運命学は一つの提案をしてくれます。しかし、その提案を全力でやってみないことには、それが正しいかどうかは、分からないのです。机に座って、百万冊の聖典を読んでも、運命学の本を読んでも、分からないのです。どんなふうに、筆者

が運命学を使用してきたかをちょっとだけ紹介してみましよう。内面で燃える火の確認を運命学で行うというのが結論です。

内面で燃える火 筆者の人生を占いで検証する

紫微斗数推命で脱サラを決意

サラリーマン時代の最後は、創立したばかりのコンピュータの会社（今は上場企業です）で、ソフト開発の仕事を七年ぐらいやりました。創業当時から数年は自由で活気があって束縛されず、楽しく仕事ができました。しかし、会社が上場するという段階になると、公認会計士やら銀行の連中が組織をいじくりだします。そして、会社の経営方針が気に食わない、上司の仕事の指示が気に食わない、という不満が出てきました。会社に行くのか苦痛になってきて、ストレスがたまり、常に下痢を患い、トイレに行く回数が多くて電車にも乗れなくなりました。それまで、サラリーマンを何度もやっては辞めていたので、

さあ、これからどうしようかと思った時に、占いを使って自分の人生を整理整頓して棚卸しをしてみようと考えたわけです。結婚したばかりでしたので、家庭に対する責任も重く感じていました。結果をいうと、紫微斗数推命では、サラリーマンは向いていないとズバリ示されていました。それを信じて、独立を決定したことが最初の開運になったわけです。

具体的には、命宮には、「武曲星・破軍星・鈴星」が入っています。武曲星は文字通り武人の星、戦う星です。破軍星は、しつちやかめつちやかの星、自分の欲望を成し遂げるために働く星。鈴星は、素早い星、スピードの星です。このように、強くて荒っぽくて短気な星が入っていますので、確かにそうである、と確信しました。

じゃあ、自分のサラリーマンとしての適性を考えた時に、これは官禄宮を

見るのですが、「紫薇星」と、「貪狼星」が入っています。「紫薇星」は、紫薇斗数推命の中で一番いい主役の星なのですが、これが「貪狼星」と一緒に入っていますので紫薇星のよさがなくなってしまうのです。つまり、サラリーマン的な能力、服務能力、誰かに仕える能力を官禄宮でみるのですが、一番いい星が入っているのに、「貪狼星」と一緒に入っているので、サラリーマンは向いていないと判断しました。それまでにも、何度もサラリーマンをやっては上司や社長とケンカをして、会社を飛び出しているのですから、そういう過去を検証して、サラリーマンが向いているというのがもし占いで出たのであれば、それは占いが間違っているという自信もありました。命宮には、「武曲・破軍・鈴星」がはいり、官禄宮に、「紫薇星・貪狼星」がはいっているので、おとなしく上司の言う事を聞いているタイプではない、ということが明らかなのです。サラリーマンを辞めて、独立して自分で商売をやるとしたらどう

なのか。ここで、お金の稼ぎ方をみる、財帛宮の定番です。財帛宮を見ますと、「廉貞星」というキツイ星、「七殺星」というキツイ星、「羊刃星」というキツイ星がはいっています。「廉貞星」というのは非常に冷静で残忍な星です。「七殺星」というのは、自分の仕える王を殺したような激しい星です。「羊刃星」というのは、金で雇われる傭兵です。戦争を仕掛けるような強い星が三つも揃っていますので、商売をやってもいいというように結論が出せるわけです。紫微斗数推命の示しているとおりに、人生を生きたほうがストレスがない人生を送れる（開運する）というのが結論でした。

こんなふうに、自分の内面がすでにぎりぎりの状態にあるときに、それを最後に確認するという使い方だと問題なく使えました。

四柱推命では独立するなと示されていた

実は、古典的な四柱推命の解釈では私はサラリーマンに向いていたのです。つまり、脱サラの決意は四柱推命ではできなかったのです。どういうことを説明しましょう。まず四柱推命の使い方ですが、私の命式を見ますと、日干が「壬」月干が「丙」です。日干から月干を見ますと、「偏財」ですね。古典的には、この並びは「江輝相映」といって、「壬」の大河に「丙」の太陽の光が注ぎ、きらきらと輝く美しい命式となっています。この財というのは、「押さえる」「やっつける」という意味があります。しかし実際は、大河がどんなに頑張っても、太陽は押さえつけることはできません。「丁」でしたら、マキなどが燃えている人工の火ですから、押さえつけることはできますが、太陽はどんなに地球上のすべての水を集めたって、太陽の火は消すことができません。ですから、古典では、この「偏財」というのは財にはなりにくい、すなわち、

お金にはなりにくいといわれています。次に、年干ですが、年干は「己」です。「壬」から「己」を見ますと、「正官」となります。

古典的な四柱推命の鑑定士さんに、今から二十年前に見てもらったときに、「いいね、あなたは年柱に正官がある、年柱に正官がある人は、清く正しく美しい人が多い、大企業のサラリーマンも勤まりますよ、あるいは、官庁でもいいでしょう」と、言われたことがあります。本当でしょうか。自分の人生を振り返ってみますと、明らかにこれは間違いです。清く正しい人生だったか？折り返して正しい生活を送っていたか？といえますと、そんなことはありません。何度も会社を転職しては、またその先で会社の上司とケンカをして飛び出しているような、そういう人生です。そういう人を見て、「正官」があるから「あなたには大企業のサラリーマンが似合いますよ」というのは間違いです。この鑑定士の使った古典的な四柱推命の理論は間違いなのです。実際の筆者の

人生の現実が正しいのです。理論のほうが間違っているのです。

こういう占いの見方をしていかないと占いは使えません。過去の人生を、自分の欲求の通りに思いっきり、正直にごまかさずに生きてきた人は、自分の人生そのもの、経験したことすべてが正解なのです。自分の人生を分析できない占いは、捨てましょう。もう結果がでているのですから、それを正しく分析できない占いは捨てましょう、というのが私の結論です。古典では、年柱というのは、社会運を見ますから、ここに「正官」があると、大企業のサラリーマンは向いていますよ、という理論は間違い間違いです。使えませぬ。家庭運は、月柱をみるので、「偏財」です。「偏財」というのは、男性にとっては女性という意味もあります。ですから、ここに「偏財」があると、女性問題や離婚問題に発展しやすいという理論があるのです。

次に時柱ですが、ここには「辛」がありますので、日干の「壬」から「辛」

を見ますと、「印綬」になります。古典でいいますと、この「財・官・印」の三つがそろうと、その人は組織で大成功すると書いてあります。本当でしょうか。私の場合、年干に「正官」、月干に「偏財」、時干に「印綬」と、三つそろっています。ですから非常に大成功するということですが、これは『独立して大成功すると言いうことではない』のですね。

「**命の三法は、財官印なり**」という言葉がありますが、これは、命式にとつて大事なものは、組織の中で知恵を出して（印）、人をコントロールして（財）、あるいは人からコントロールされて（官）、人間関係の中で成功していくことを言っているのです。つまり組織の中で大成功をしていくということなのです。「財」というのは、人を押さえつける力、人をコントロールする能力のことです。「官」というのは、人から押さえつけられる力、人からコントロールされる能力のことです。上司からみて、目上から見ても使いやすいな、と思わ

れる能力が「官」の才能です。「印」というのは人気星、アイディア星です。

何度も言いますが、私は転職して、転職するたびに上司や経営者とケンカを
してしまいますので、組織の中で成功した試しは一度もありません。ですから、
「命の三法は、財官印なり」とありますが、これがあれば組織で大成功すると
いう理論は間違いである、という確信をもっていきます。

ですから、四柱推命の本や原書などを読んで、理論を鵜呑みにするというのは
非常に危ないのです。それよりも自分の人生を整理して、使えるものは使う、
使えないものは思い切って処分するという、こういった姿勢が大事なのです。
取捨選択の内容は、人それぞれ違って当然でしょう。自分の内面がすでにぎ
りぎりの結論をもっていて、それを最後に確認するという使い方のほうが問
題ありません。なにも内面の炎が燃えていない状態では、運命学は使えません。
筆者はサラリーマン向いていないという結論を持っています。その結論を持つ

た上で改めて四柱推命を自分にフィットするように見てみましょう。

四柱推命を実用的に使う

命式のなかで、商売の星というのは「偏財」です。「偏財」は月柱の天干にありますから、月柱の天干というのは、仕事運といえます。古典的な本には、年柱が社会運、仕事運と書いてありますが、実際はそうではありません。サラリーマンは向いていない、商売をしよう、という結論のもとにもう一度四柱推命の命式を見てみますと、商売の星は月柱天干にあります。ですから、そこが仕事運というように決定しました。これが自分自身の人生から四柱推命を見たときの自分流の定義のしかたですが、後になって四柱推命の歴史をよく調べてみますと、古代中国の家庭運というのは、自分の家に飯炊き担当の人、自分の子供を教育する学者、自分の家を守る軍隊、こういう人たちが数

十人いるような大家族なわけです。この数十人のスタッフ、をどうやって管理、運営していったらよいかを推理するのが四柱推命でしたから、今の時代では、これが社会運になるのです。自分が管理するビジネス上の人数が数十人程度でしたら、月柱で社会運を見るわけです。

それでは私にとって、年柱にある「正官」は作用しているのかどうか、というのを分析してみました。「正官」というのは、何かに従う、誰かに従うという従順な精神の持ち主ですから、もし私が、誰かに従う、何かに従うとしたら、それは「国家」に対する忠誠心です。日本をよくしたい、という忠誠心です。

それでは、私の時柱の「印綬」はなにか。私の場合、この「印綬」の星というのはほとんど最近になるまで発動していませんでした。「印綬」というのは人気、文章を書く力、本を書く力、このような才能なのですが、本を出版するというのは、私が四十五歳を越えてからのことです。それまでは、文章

など書いたこともなかったですし、本を書いたこともありませんでした。

ですから、私は時柱の「印綬」は発動しないものと思っていました。ところが最近になって「印綬」の仕事をしていますので、時柱の「印綬」というのは、月柱や年柱の星の能力を使いきったあと、最後にこれが出てくると、思っています。

次に十二運星の見方を説明します。十二運星は日柱の天干と地支から導き出したもので、私の場合は「胎」となります。「胎」は、独自性やオリジナルを示し、人の物真似は嫌だという行動をします。また、十二運星星は人の一生にたとえられていますので「胎」は受精した直後となります。ですから新しいものの始まり、新しいものが好き、新しいものに好奇心がわき、新しいものを創造したい欲求、となります。

会社の運営方針を決定するのに四柱推命を使った

そして、古典的な教科書では、月柱の十二運星は仕事運を表すといいますが、私の場合は「帝旺」です。仕事運は最高の地位を獲得するとなります。年柱の十二運星は「建禄」です。社会運です。完璧主義であるとみます。しかし実際これは使えません。実際の自分の過去のデータと一致しないからです。月柱の「帝旺」年柱の「建禄」どちらもエネルギー的には強いといわれており、社会的には立派な星なのですが、果たして自分のビジネススタイルはどうかというと、「胎」のほうが現れています。「胎」というのはどこにもないものを世の中に出したいという欲求ですから、これが私のビジネススタイルです。フォーチュンソフトの商品というのは、どこも真似もしていない商品なのです。実際私がソフトを作る場合、他社の商品は参考にしません。全くしません。他社が真似できるような商品も作りません。この特徴は「胎」です。だから、

他社が携帯電話用の占いコンテンツで利益を出している期間も、当社はプロ用の占いソフトを開発してきたわけです。

筆者にとつてのより大きな生命体とは占い業界全体です。主婦の人であれば、より大きな生命体とは、それは家庭、家族かもしれません。サラリーマンの人であれば、それは会社という組織になるかもしれません。専門職の人であれば、専門分野の組織になるかもしれません。筆者にとつての「より大きな生命体」というのは、占い業界全体となります。というのは、この占い業界というのは今ひどい状態にあるのです。ヨーロッパのメディアに、「日本は世界最大の占いマーケット、ただし、レベルは世界最悪である」という記事が載っていたのです。これは、悲しいことに真実なのです。女性雑誌では電話占いの広告が多いのですが、最近では、特に靈感占いが大流行です。当社にも、

電話占いをやっている占い師さんが、相談にやってきますが、その相談内容は、『私は霊感がないのに、霊感占いでないと売れないので、無理に霊感があるように演技して占いをやっています。』という悩み相談です。

では、何故日本の占い業界がそんな風になってしまっているのか？という
と、大衆が好むもの（つまり売れるもの）は、情感を刺激するものだからです。
真に知的なものは、大衆は好みません。努力しないで相手から好かれる方法と
か、だまっけていても、保有しているだけで運が向上するグッツとか、とにかく、
今の自分を変えないで済む方法、努力しなくても幸せになる方法を、懸命に
なっけて探しているのが大衆です。努力しなくても済む方法を、情感的に刺激
しないと、儲からないからなのです。情感の刺激は、一時的には気持ちが良い
くなりますが、すぐに効果はなくなります。すぐに効果がなくなるので、あ
らたに、また情感を刺激するものを、買うわけです。大衆が好むものは、麻

薬のように気持ちよくさせてくれるものです。

さて、当社も、インターネットの占いコンテンツの業界で商売をスタートして十年以上たちますが、情感を刺激すれば売れるコンテンツにはなりませんが、やっつけて満足感はありません。もっと、本質的な部分を刺激しつつも、継続して売れるコンテンツはあるのだろうか？ 本当にお客さんのためになるようなコンテンツは、どういうものだろう？と試行錯誤してきました。そして、開発したのが、当社が開発した占いライター養成講座です。占いというのは、「当たる、当たらないではない。今よりも少しでも勇気を出して進化していきましょう。」ということを伝達するための道具に過ぎません。占いに心があられるお客様を、そちらの方向へ導いていきたくった、というのが根底にあったのです。筆者にとっての「より大きな生命体」というのは、占い業界全体となります。

「より大きな生命体」というのは、このように、自分の人生の一部になってしまいうくらい、エネルギーを投入しているものであり、一日のうち、わずかの時間しか費やすことができないものは、「より大きな生命体」には、なりにくいということです。経営者の中には、土日だけお寺で修行して自己満足している人がいますが、月曜日から金曜日までは専心できていないということですから、これでは進化しません。完全に投入して、自己を忘れるくらいに無我夢中でやってみると、ものごとの核心が見えてきます。そうすると力が出てきます。損したらどうしよう、失敗したらどうしようという計算なくめのズルイ心では、なにをやっても、たとえそれが理論的には正しいことであつたとしても、ものごとの核心が見えてきません。ズルイ心の人、卑怯な人は、核心が見えないので常に落ち着きがありませんし、真ん中に座ることができないので、幸せになることもできないのです。

人の構造（天と地の関係）

四柱推命では、天が気・地が質といいますが、実際はもつと細かく分かれています。一番荒っぽい粒子を持っているのが肉体です。この肉体の中に固体があり液体があり気体がありエーテル体があります。肉体よりもつと微細な粒子から構成されているのがアストラル体で、これは情感や情緒です。さらに微細な粒子になると、メンタル体となり、これは知性です。メンタル体の上がブツディ界です。メンタル体の限りなく上部で直感の下辺りに「魂」が位置しています。ブツディ界の上が、アトマ界、その上がモナド界。その上が本当の意味での神、ロゴスという構造になっています。

好きとか嫌いといった感情のアストラル体を中心に生きている人というの

は、自分で作り上げた感情に振り回されて、苦しいと感じたり、悲しいと感じたり、寂しいと感じたりしているのです。こういう感情がもし自分の中にあれば、アストラル体で反応しているのです。アストラル体は極端から極端に動き、中央に座ることができませんから、常に不安定です。不安定ということは常に不安です。不安だから詐欺にあいやすいのです。だまされるから不満なども多くなります。不満が多くなると人が寄ってきませんから孤独になります。

メンタル体で生きている人は、沢山本を読んで沢山理解して、沢山知識があるので、その結果とても冷静である、こういった特徴があります。今の人類は、この知性の段階に入っています。しかし、この知性で生きている人の大きな欠点は、**不正確な理解で失敗すると**、何十年も人生をそのまま、失敗の状態で過ごしやすいということです。メンタル体に移行するには、アストラル体をさんざんやってみるといふ経験が必要です。泣いたり、笑ったり、愛したり、

憎んだりするのです。飽き飽きするまでやると、メンタル体に移行します。

メンタル体の上のほうにある「魂」になると、知性ではなく意思になります。魂で考える、魂で行動している人というのは、意思と同じことです。一つのことを十年以上継続して努力することが出来るのです。誤解しないでいただきたいのは、ここで言う「意思」というのは、「さあやるぞ」といったやる気のことではありません。これはアストラル体の感情です。**意思というのは、大いなる計画を知って自分の役目を肅々とやってゆきます。**冷静で無理がなく、好きだとか嫌いだとか、いい悪いなどではなく、大いなる計画を知って、それにその中の役目を自分はここだからそれをやってゆくといった、シンプルな生き方になるのです。魂で判断したことは間違いないのです。魂は、ブッディ界から上と通信できる唯一の限界点にいます。魂の波動というのは間違いないのです。魂で感じたことはやってみると途中で困難に遭遇した

としても必ず成功するのです。

肉体のコントロールが出来ない人、病気がちな人、癌や大病、朝起きて仕事に行くことが出来ない人などは、この感情（アストラル体）が病気ですから、アストラル体を治さないといけません。その感情をコントロールしようとするのは知性です。しかし、知性は不正確な理解をしてしまうと人生を大きく失敗してしまいます。知性をコントロールするのは意思の力です。魂と接触をして、意思の力で知性をコントロールしなければなりません。沢山本を読んで、知性に磨きがかかった人は、魂との接触をして、魂の計画を知ってその意思で知性を使うようにしないと、失敗してしまうのです。最も難しいと言われている司法試験に合格する為の塾を開いているカリスマ教師がいるのですが、この教師が生徒に初めに聞くことがあります。それは「弁護士になって何を

するのですか？」「何のために弁護士になるのですか？」と言う質問なのです。この動機が非常に重要で、資格を取ったら給料があがる、社会的地位が上がる、人に尊敬される、などと動機が自分にある場合は、続かないのだそうです。勉強は楽ではありません。利己的であればあるほど、苦しいときを乗り越えるだけのパワーが出てこないのです。

ですから、弁護士の資格を取った先のビジョンが描けず、動機が自分にある人はこの塾には入れないのだそうです。継続性があるかないかは、動機をたどればわかります。結果が出ない人は、動機が悪いという事です。

さて、結論を言います。

1. 強烈で継続性のある意思で知性をコントロールする。
2. コントロールされた知性で物事を識別する。
3. コントロールされた知性で感情をコントロールする。

結果として、不安・迷い・恐れ・どうしようどうしようという思い・よいな罪悪感、こんな感情がきれいに消滅していきます。理論的には、こんなふうになりますが、体験した人だけが、あとから整理すると、実はそうだと分かることであって、体験していない人は、とにかく全力でやってみる必要があります。

どうしたら、損せず傷つかずに生きられるのか。そのために真理を知りたいという好奇心では、真理を経験することはできません。生死をかけないと、目の前に真理があるのに、自分を被っているボールを破ることができないので見えないのです。真理は知るものではありません。真理は経験するものなのです。経験が先で知識が後なのです。知識がなくても真理は経験できるのです。